

沖 縄 県
生涯学習に関する県民意識調査報告書

平成15年3月

沖 縄 県 教 育 委 員 会

はじめに

本県では、平成7年度に策定しました「沖縄県生涯学習推進計画」に基づき、学習機会の提供や指導者の養成・確保、学習情報提供システムの整備、生涯学習関連施設の整備・充実を図るなど、生涯学習環境づくりを進めてまいりました。

その実績を踏まえ、平成13年度に「第二次沖縄県生涯学習推進計画」を策定し、平成14年度から平成23年度までの10年間で、『潤いと生きがいのある生涯学習社会』を形成するため、県では生涯学習を総合行政として、全部局が一体となって関連事業を推進しております。

本調査は、県民の自主的な生涯学習推進を支援するための事業を集中的・総合的に行う、生涯学習振興の拠点施設である「沖縄県生涯学習推進センター（仮称）」設置に向けて、県民の生涯学習への意識と行動を把握し、平成11年度に実施しました調査結果との比較による3年間の経年変化を見ると同時に、今後の生涯学習推進施策の基礎資料を得ることを目的として実施しました。

この調査結果が、関係者各方面で広く活用され、『潤いと生きがいのある生涯学習社会』実現のための推進に役立てていただければ幸いです。

最後に、本調査を実施するにあたりご協力をいただきました皆様方に、深く感謝申し上げます。

平成15年3月

沖縄県教育委員会
教育長 津嘉山朝祥

目 次

はじめに

1 章 調査の概要

1-1 調査の目的と実施概要	1
1 調査の目的	1
2 調査実施の概要	1
3 回収結果	2
4 集計・選択肢の表現について	2
1-2 回答者の属性	3
1-3 調査結果の概要	5
1 学習活動の実態	5
2 学習活動を支える条件	6
3 生涯学習の今後の方向	7
4 「沖縄県生涯学習推進センター（仮称）」について	8
5 青少年育成活動について	8

2 章 調査結果の分析

2-1 学習活動の実態	11
1 学習分野の実態	11
2 利用施設	14
3 生涯学習活動の目的	17
4 生涯学習活動で役立ったこと	20
5 学習成果の活用状況	26
6 学習や活動ができない理由	29
2-2 学習活動を支える条件	32
1 情報提供方法	32
2 学習活動を進めていく上での要望	35
3 学習活動に対する負担額	38
4 学習活動に要する自由時間	40
2-3 生涯学習の今後の方向	44
1 今後重要となる生涯学習	44
2 今後の学習方法	47
3 今後参加したい学習活動	51
2-4 「沖縄県生涯学習推進センター（仮称）」について	54
1 同センターの設置について	54
2 利用したい内容	57
2-5 青少年育成活動について	60
1 活動への参加状況	60
2 活動の内容	62
3 参加できない理由	65
自由記入	68
アンケート票	71

1 章 調査の概要

1 章 調 査 の 概 要

1-1 調査の目的と実施概要

1 調査の目的

沖縄県教育委員会では、各市町村における県民の生涯学習活動の支援に取り組んでおり、県民の生涯学習に対する認識をはじめ、活動とその充実促進を図っている。一方、県民生活においては、高齢化の進展に加え、生活の質的向上に対する意識の高まりと相まって、行政に求めるニーズも多様化、高度化が進んできている。生涯学習活動に関する県民意識もその広がりや深まりをみせており、各市町村における支援の拡充が一層求められている。

本調査は、県民の生涯学習活動の拡充を図るために、市町村及び県の生涯学習施策を検討するために必要なデータを得ることを目的に実施したものである。

2 調査実施の概要

(1) 調査の対象と標本数

- ① 調査の対象： 20歳以上の県民
- ② 標本数： 2,000件
- ③ 抽出方法： 層化2段無作為抽出

母集団～県内在住の20歳以上の住民

第1次抽出	中都市(人口10万～50万人未満)	那覇市
	小都市(人口10万未満)	名護市、石垣市
	町 村	北谷町、玉城村
第2次抽出	各自治体の人口に比例した標本数を等間隔で抽出。	

(2) 調査の実施方法と期間

- ① 調査の実施方法： 郵送方式
- ② 実施期間： 平成15年2月

(3) 調査内容

下記の調査内容に関する設問番号は、順不同である。(調査票のレイアウトの関係で設問が前後した箇所があるため。)

- ① 対象者の属性(問1～5)
性別、年齢、居住年数、居住地、職業、
- ② 学習の実態(問6、問12、問10、問9、問11、問21、問17)
1年間に継続した学習、活動のために使用した施設、学習等を行う目的、学習活動の効果、効果の具体例、学習成果の活用状況、学習や活動ができない理由、
- ③ 学習活動を支える条件(問8、問7、問13、問14)
学習に関する要望、学習情報の提供方法、活動費用、自由時間
- ④ 生涯学習の今後の方向(問15、問16、問18)
今後重要となる生涯学習、今後の学習方法、今後参加したい学習活動
- ⑤ 「沖縄県生涯学習推進センター(仮称)」について(問19、問20)
同センターの設置について、利用したい内容
- ⑥ 青少年育成活動について(問22、問23、問24)
活動への参加状況、活動の内容、参加できない理由

3 回収結果

回収結果は、下記のとおりである。

	配布数	回収数	回収率	宛先人不明戻り分
那覇市	1,000	195	19.5%	8
名護市	400	79	19.8%	6
石垣市	300	96	32.0%	6
北谷町	200	49	24.5%	2
玉城村	100	27	27.0%	0
不明	—	2	—	—
計	2,000	448	22.4%	22

4 集計・選択肢の表現について

回答率（各回答の百分率比）は少数第2位を四捨五入した。特記のない場合の単位は%である。単数回答（SA）の百分率の合計は100.0%であるが、四捨五入のために合計が見かけ上、100.0%にならないことがある。百分比が、0.05%未満の場合は0で示してある。

複数回答（MA）は回答者数を基数として算出してあり、合計が100.0%を上回ることがある。

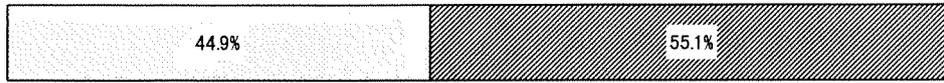
分析の中で、回答選択肢の表現の趣旨を損なわない範囲で語句を省略し、表現を簡略したことがある。

1-2 回答者の属性

(1) 性別

		性別	
		男性	女性
有効回答	448	201	247
全体	100.0%	44.9%	55.1%

(100%)



□ ①男性 ▨ ②女性

(2) 年齢

		年齢						
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
有効回答	448	59	73	98	102	78	37	1
全体	100.0%	13.2%	16.3%	21.9%	22.8%	17.4%	8.3%	0.2%

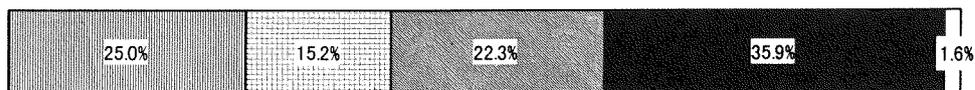


■ ①20~29歳 □ ②30~39歳 ▨ ③40~49歳 ■ ④50~59歳
 □ ⑤60~69歳 ▨ ⑥70歳以上 □ ⑦無回答

(3) 居住者年数

	標本数	問3 居住年数				
		0~5年	6~10年	11~20年	21年以上	無回答
有効回答	448	112	68	100	161	7
全体	100.0%	25.0%	15.2%	22.3%	35.9%	1.6%

(100%)

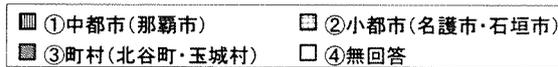
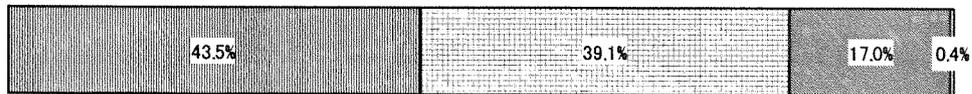


■ ①0~5年 □ ②6~10年 ▨ ③11~20年
 ■ ④21年以上 □ ⑤無回答

(4) 居住地

	標本数	居住地			
		中都市 ：那覇市	小都市 ：名護市 ：石垣市	町村 ：北谷町 ：玉城村	無回答
有効回答	448	195	175	76	2
全体	100.0%	43.5%	39.1%	17.0%	0.4%

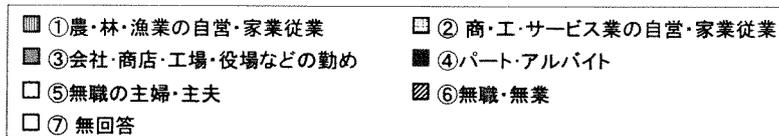
(100%)



(5) 職業

	標本数	職業						
		農林漁業の自 営・家業従業	商・工・サービス 業の自営・家業 従業	会社・商店・工 場・役場など の勤め	パート・アル バイト	無職の主 婦・主夫	無職・無業	無回答
有効回答	448	22	57	159	54	66	86	4
全体	100.0%	4.9%	12.7%	35.5%	12.1%	14.7%	19.2%	0.9%

(100%)



1-3 調査結果の概要

1 学習活動の実態

(1) 過去1年間継続的に学習した分野

過去1年間継続的に学習した内容として、「健康に関する分野」(45.8%)と「趣味・家庭生活に関する分野」(42.6%)の2分野が高い割合となった。以下、「産業・技術に関する分野」(26.8%)、「芸術・芸能に関する分野」(24.6%)、「教養に関する分野」(24.6%)、「教育・福祉に関する分野」(23.0%)、「体育・スポーツに関する分野」(21.0%)の5分野が2割台である。

前回調査と設問形態が異なるので、単純な比較は難しいが、今回の設問形態に読み替えると、「教養に関する分野」(66.9%)、「趣味・家庭生活に関する分野」(61.8%)「健康の分野に関すること」(60.6%)、「芸術・芸能に関する分野」(52.1%)の4分野の割合が比較的高い結果となった。健康や趣味・家庭生活、芸術・芸能に関する分野に対して、一定して県民の関心が高いことがうかがえる。

(2) 利用施設

過去1年間に利用した施設について、「スポーツ施設」が37.9%と高く、以下、「図書館」(37.5%)、「公民館」(30.1%)、「個人の家」(23.4%)、「学校の施設」(20.8%)と、上位5項目が2割以上を示している。

前回調査と比較すると、「スポーツ施設」、「図書館」、「公民館」「個人の家」の4位までは、前回同様に上位にあげられており、特に3位までは割合も高くなっている。今回「学校の施設」が5位にあげられ、利用施設としての重要性が増してきている。近年進められている学社連携・融合にともなう学校施設の地域への解放の影響が考えられるところである。

(3) 生涯学習活動の目的

学習・文化活動・スポーツ活動の目的について、「健康に役立てるため」73.7%と「趣味を生かし生活に生きがいを持つため」72.5%の2項目が最も高い割合である。以下「老後の生活を豊かにするため」44.6%、「職業に必要な知識や技能を高めるため」44.2%、「気のあった仲間とともに学習し向上するため」43.8%の3項目が4割台を占め比較的高い。

前回調査と比較すると、「健康に役立てるため」と「趣味を生かし生活に生きがいを持つため」が前回同様に高い割合で1位・2位を占め、3位に「老後の生活を豊かにするため」と続いている。主に健康づくりや日常生活に役立てるために生涯学習の活動を行っていることがうかがえる。

(4) 生涯学習活動で役立ったこと

① 役立ったことの有無

「かなりあった」が42.2%と最も高く、「とても多かった」21.2%を合わせると、学習活動の効果を感じている人は63.4%と、全体の約6割強を占めている。

前回の調査と比較すると、「かなりあった」が前回と同様に最も高い割合となり、「とても多かった」「かなりあった」については前回の58.9%より4.5%若干増加している。

② 役立った内容

前問で学習活動の効果がある(「とても多くあった」、「かなりあった」と回答した方について、その内容をみると、「必要な知識・技術が高められた」が68.3%と最も多く、次に「新しい友達を得て人間関係が広がった」59.2%、以下「生活をよくするために役立った」37.3%、「働くほかに生きがいをもてた」36.6%と続いている。

特に「必要な知識・技術が高められた」と「新しい友達を得て人間関係が広がった」の上位2項目は前回同様に割合が高い。自己の能力向上とともに、交友関係などの交流が広がったことが主な評価であり、結果的に生きがいや生活の改善、楽しみなど充実した生活を送る上で役に立っていることが基本となっているといえよう。

(5) 学習成果の活用状況

学習成果の活用をみると、「日常生活の向上」が39.1%と最も高く、次に「特に活用していない」(34.6%)、「職業生活への活用」(24.3%)、「同好のグループやサークルづくり、参加」(23.2%)が主なものとして続いている。自分自身の生活の質的向上に寄与している状況がほとんどであることがうかがえる一方、特に活用していないと答えた割合が2位を占め高くなっており、学習成果の地域などへの社会的還元がまだまだ少ない状況にある。

(6) 学習や活動ができない理由

生涯学習活動を阻害する要因について、「仕事・家事・育児のため、時間がとれない」が43.3%と最も高く、以下、「希望する内容に合った学習や活動の機会がない」38.8%、「身近に利用できる施設が少ない」33.3%、「経費が多くかかる」29.2%、「どんな学習や活動があるかわからない」27.7%と続いている。

前回調査と比較すると、「仕事・家事・育児のため、時間がとれない」が前回と同様に今回も1位であり、学習活動のために時間がとれない人が多いことがわかる。前回4位の「身近に利用できる施設が少ない」が今回3位に順位を上げ、「経費が多くかかる」も前回5位から4位に順位を上げている。

活動の阻害要因のうち、「希望する内容に合った学習や活動の機会が少ない」、「どんな学習や活動があるかわからない」、「身近に利用できる施設が少ない」などについては、各市町村の自治体や社会教育行政の取り組みにより改善が可能なものと考えられる。一方、「仕事・家事・育児などのため、時間がとれない」については、家事と育児の負担が女性に偏っていることが予想されるところであり、男女共同参画の視点から、各家庭において、男女がともに学習活動ができる環境づくりが望まれるところである。

2 学習活動を支える条件

(1) 情報提供方法

学習や活動などに関する伝達手段については、「新聞で」が60.0%と大半を占めた。次に「市町村の広報紙で」と「テレビで」がそれぞれ35.9%、35.5%と続いている。その他に比較的高いのが「チラシ・ポスター・パンフレットなどで」が21.2%となっている。一方、「インターネットで」が11.4%にとどまっており、県民に広く普及している状況にはないことがうかがえる。

前回調査と比較して、割合の若干の差はあるが、ほぼ同様な結果となっており、新聞や市町村の広報による情報伝達が一定して重要であるといえよう。

(2) 学習活動を進めていく上での要望

生涯学習推進上の要望をみると、「講座・実習・見学・講演会・研修会など学習機会をもっと増やしてほしい」が43.3%と最も高く、「学級や講座など生涯学習事業を、もっと利用しやすい曜日や時間に開いてほしい」38.6%、「事業案内・講師紹介など、学習するのに必要な情報をもっと提供してほしい」32.6%となっており、この上位3位は4位以下を引き離して3割以上と高い割合である。以下「生涯学習の指導者・専門家の育成・紹介にもっと力を入れてほしい」26.3%、「体育館のような屋内スポーツ施設をもっと設けてほしい」20.5%、「公民館など学習や集会のための施設をもっと設けてほしい」19.6%となっている。

前回調査と比較すると、人材育成や生涯学習機会の拡充などのソフト施策に関する項目が前回と同様に上位を占めており、一定してニーズが高い。また、施設増設の要望は、前回と同様に「体育館のような屋内スポーツ施設の増設」が5位を占め比較的割合が高くなっている。

(3) 学習活動に対する負担額

生涯学習活動の費用負担をみると、一人当たりの月平均6,475円まで負担が可能であると考えられる。これを年間で算出すると、一人当たり年間負担額は、77,700円になる。

前回調査によると、生涯学習活動の自己負担費は、一人当たり月平均6,420円であり、今回は55円増加している。

(4) 学習活動に要する自由時間

① 平日の自由時間

県民の自由時間の平均は、平日で3.1時間(3時間06分)、休日で5.4時間(5時間24分)となっている。

前回調査と比較すると、前回調査では平日2.9時間(2時間54分)、休日5.2(5時間12分)であり、平日・休日ともに12分増えている。

② 休日の自由時間

男女別にみると、男性6.1時間(6時間6分)、女性4.9時間(4時間54分)と休日における女性の自由時間は男性のおよそ3分の2である。「1時間以下」の短い時間については、男性3.0%、女性10.1%と女性の割合が高いのに対して、「4時間以上」になると、男性50.7%、女性39.7%と男性の割合が高い。休日における自由時間は平日の自由時間と同様に女性の自由時間が短い状況にあるとともに、男女の自由時間の差は、平日よりも休日のほうが大きくなっている。

3 生涯学習の今後の方向

(1) 今後重要となる生涯学習

将来における生涯学習の重点について、「家庭教育」が42.4%と最も高く、以下、「高齢者教育」30.8%、「少年教育」10.5%、「成人教育」7.8%、「青年教育」2.0%と続いている。

前回調査と比較すると、今回も前回と同じ順位である。その中で、今回1位の「家庭教育」は前回は1.2ポイント上回る42.4%を占めている。「家庭教育」の割合が高くなったことは、核家族化の進行、共働き世帯の増加などが進んでいるとともに、近年、学級崩壊をはじめ少年犯罪が多発しており、少年の家庭環境・教育のあり方が注目されている社会的背景がうかがえる。また、家庭における親子のふれあいなどが重要視されてきたことなどの影響も考えられる。

(2) 今後の学習方法

今後の学習方法として、「仲間・サークル」が35.9%と最も高く、以下、「図書館を利用して」が33.5%、「公民館を利用して」28.6%、「雑誌・新聞等の出版物を利用」27.9%、「テレビ・ラジオを利用」24.1%、「地域組織による講座」21.7%、「民間のカルチャーセンターの事業に参加」18.3%と続いている。

前回調査と比較すると、大きな順位や割合の変化はなかったが、前回で2位だった公民館の利用が今回3位となり、前回3位だった図書館の利用が2位となる変化があった。

(3) 今後参加したい学習活動

今後やってみたい学習内容として、「健康に関する分野」(53.3%)と「趣味・家庭生活に関する分野」(55.1%)の2分野が半数を占め高い。以下、「教養に関する分野」(34.2%)、「芸術・芸能に関する分野」(33.7%)、「教育・福祉に関する分野」(30.1%)が3割台、「体育・スポーツに関する分野」(26.8%)と「産業・技術に関する分野」(21.2%)が2割台となっている。過去1年間において、継続的に学習活動を行ってきた健康や趣味・家庭生活、芸術・芸能に関する分野に対して、今後ともやりたい分野として取り上げている。

前回調査と設問形態が異なるので、単純な比較は難しいが、今回の設問形態に読み替えると、「趣味・家庭生活に関する分野」(68.5%)、「健康の分野に関すること」(45.8%)、「芸術・芸能に関する分野」(44.3%)、「教養に関する分野」(37.2%)の4分野の割合が比較的高い結果となった。

4 「沖縄県生涯学習推進センター（仮称）」について

(1) センターの設置について

「必要である」が76.1%とほとんどを占めた。「必要ない」が3.6%と少ない。

(2) 利用したい内容

利用したい内容として、「いろいろな「講座」を受けてみたい」(59.8%)と「「講演」を聴いてみたい」(57.2%)の両項目が過半を占める割合となっており、問8の要望で割合が高かった「学習機会を増やす」ことのニーズが反映されたものと思われる。

5 青少年育成活動について

(1) 活動への参加状況

「はい」と答えたのが17.6%と2割弱でほとんどの県民は携わっていない状況にある。その中で、40歳代(25.5%)と30歳代(23.3%)及び50歳代(21.6%)で比較的高いのが特徴的である。子育ての年代に当たり、子育てを通して携わっている状況がうかがえる。

(2) 活動の内容

活動内容としては、「PTA活動」と答えたのが50.6%と半数を占めて最も高く、「地域自治公民館活動」が30.4%、「地域子ども会活動」が21.5%、「学校支援ボランティア活動」が19.0%、「地域少年スポーツ活動」が16.5%と続いており、それら以外の項目は1割未満である。また、30歳代と40歳代及び50歳代の子育ての年代では活動のバリエーションが多くなっており、多様に活動している状況がうかがえる。

(3) 参加できない理由

参加できない理由として「時間がない」(36.2%)と「どこで携わればよいかわからない」(35.1%)、「持てる技術(資格)がない」(32.3%)、「仕事が忙しい」(34.3%)の4項目で3割を超えて高い。次に2割台と比較的高いのが「地域の人を知らない」(20.3%)と「関わりをつなぐコーディネーターがいない」(23.4%)となっている。この中で「どこで携わればよいかわからない」と「地域の人を知らない」及び「関わりをつなぐコーディネーターがいない」の3つの理由については、携わるきっかけや窓口を設けることによって、活動に参加できる可能性があるものと考えられることから、ていねいな情報提供等を行うなどの支援が必要と思われる。

若い年代ほど「時間がない」や「どこで携わればよいかわからない」、「地域の人を知らない」と答えた割合が高い傾向にある。また、30歳代・40歳代・50歳代の子育ての年代では「仕事が忙しい」と答えた割合が比較的高く、社会的な中堅層の忙しさがうかがわれる。50歳代で「関わりをつなぐコーディネーターがいない」が39.2%と約4割となっており、特徴的である。

2章 調査結果の分析

2 章 調 査 結 果 の 分 析

2-1 学習活動の実態

(問6、問10、問9、問11、問12、問21、問17)

1 学習分野の実態

問6 あなたがこの一年間に継続して、学習活動されたものについて、次の①～⑨の分野から選んでください。(いくつ選んでもかまいません)

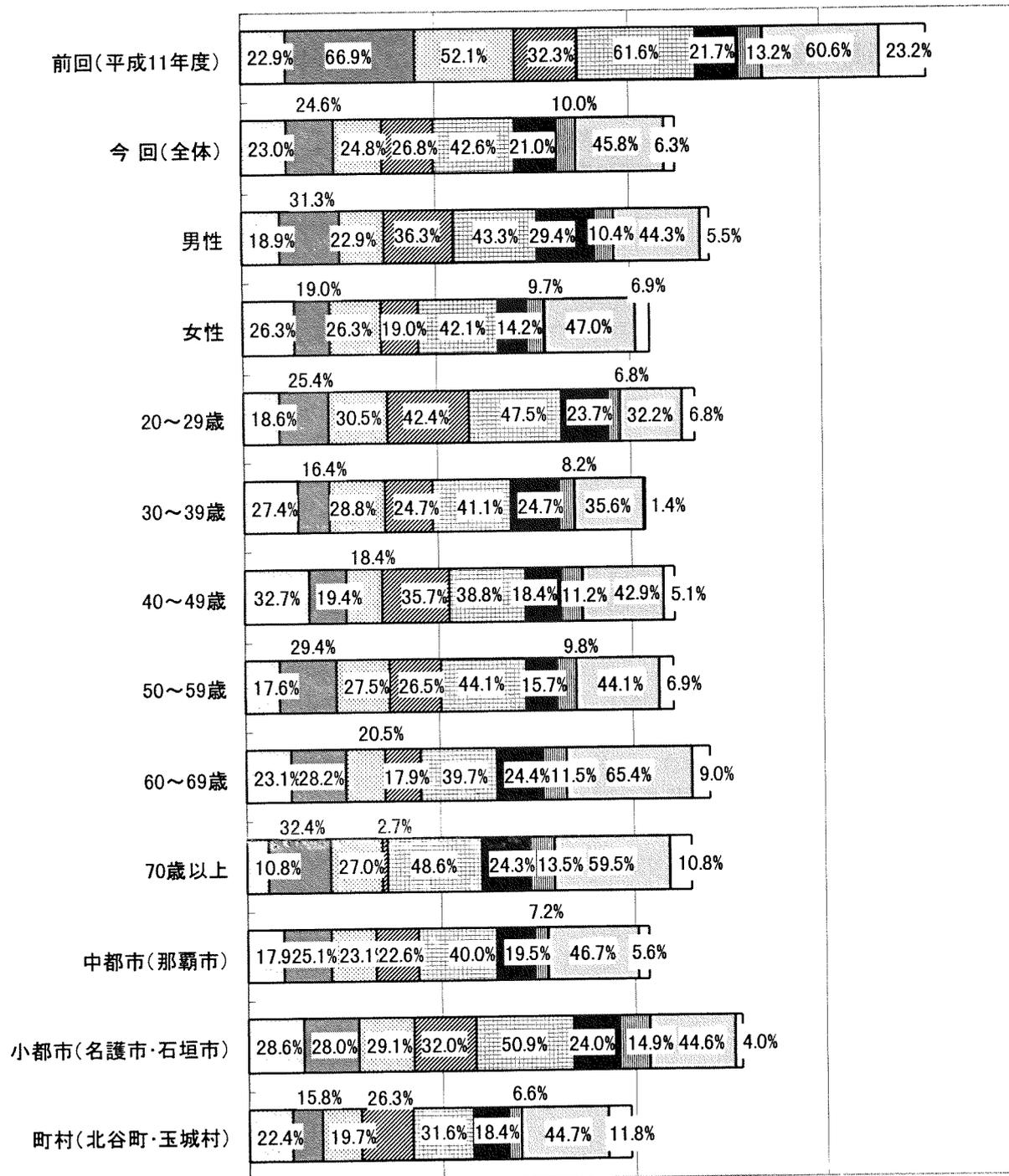
- | | |
|------------|--------------|
| 1. 教育・福祉 | 6. 体育・スポーツ |
| 2. 教養 | 7. 市民生活・国際理解 |
| 3. 芸術・芸能 | 8. 健康 |
| 4. 産業・技術 | 9. その他 |
| 5. 趣味・家庭生活 | |

過去1年間継続的に学習した内容として、「健康に関する分野」(45.8%)と「趣味・家庭生活に関する分野」(42.6%)の2分野が高い割合となった。以下、「産業・技術に関する分野」(26.8%)、「芸術・芸能に関する分野」(24.6%)、「教養に関する分野」(24.6%)、「教育・福祉に関する分野」(23.0%)、「体育・スポーツに関する分野」(21.0%)の5分野が2割台を占め、拮抗している。

前回調査と今回調査では設問形態が異なるので、単純な比較は難しいが、今回の設問形態に読み替えると、「教養に関する分野」(66.9%)、「趣味・家庭生活に関する分野」(61.8%)「健康の分野に関すること」(60.6%)、「芸術・芸能に関する分野」(52.1%)の4分野の割合が比較的高い結果となった。健康や趣味・家庭生活、芸術・芸能に関する分野に対して、一定して県民の関心が高いことがうかがえる。

男女別にみると、「健康に関する分野」と「趣味・家庭生活に関する分野」の両分野については両者とも4割台と高い割合である。その中で、違いがみられたのが、男性では「教養に関する分野」と「産業・技術に関する分野」、「体育・スポーツに関する分野」について女性を上回っており、逆に女性では「教育・福祉」について男性を上回っている。

年代別にみると、「健康に関する分野」については年代が高いほど割合が高くなる傾向にあり、特に60歳代と70歳以上では過半数を占めている。また、若い年代ほど割合が高い傾向がみられるのが「産業・技術に関する分野」についてであり、20歳代では42.4%を占めている。その他に特徴的なのは、40歳代で「教育・福祉に関する分野」について32.7%と比較的高い割合を示している。おおむね、それぞれの年代のライフステージにおける関心事を反映した特徴がうかがえる。



- ①教育・福祉
- ②教養
- ▨ ③芸術・芸能
- ▩ ④産業・技術
- ▧ ⑤趣味・家庭生活
- ⑥体育・スポーツ
- ▩ ⑦市民生活・国際理解
- ⑧健康
- ⑨その他

		標 本 数	一年間継続して学習活動した分野								
			1. 教育・福祉	2. 教養	3. 芸術・芸能	4. 産業・技術	5. 趣味・家庭生活	6. 体育・スポーツ	7. 市民生活・国際理解	8. 健康	9. その他
前回 (平成11年度)		607	139	406	316	196	374	132	80	368	141
		100.0%	22.9%	66.9%	52.1%	32.3%	61.6%	21.7%	13.2%	60.6%	23.2%
今回(全体)		448	103	110	111	120	191	94	45	205	28
		100.0%	23.0%	24.6%	24.8%	26.8%	42.6%	21.0%	10.0%	45.8%	6.3%
性別	男性	201	38	63	46	73	87	59	21	89	11
		100.0%	18.9%	31.3%	22.9%	36.3%	43.3%	29.4%	10.4%	44.3%	5.5%
	女性	247	65	47	65	47	104	35	24	116	17
		100.0%	26.3%	19.0%	26.3%	19.0%	42.1%	14.2%	9.7%	47.0%	6.9%
年齢	20～29歳	59	11	15	18	25	28	14	4	19	4
		100.0%	18.6%	25.4%	30.5%	42.4%	47.5%	23.7%	6.8%	32.2%	6.8%
	30～39歳	73	20	12	21	18	30	18	6	26	1
		100.0%	27.4%	16.4%	28.8%	24.7%	41.1%	24.7%	8.2%	35.6%	1.4%
	40～49歳	98	32	19	18	35	38	18	11	42	5
		100.0%	32.7%	19.4%	18.4%	35.7%	38.8%	18.4%	11.2%	42.9%	5.1%
	50～59歳	102	18	30	28	27	45	16	10	45	7
		100.0%	17.6%	29.4%	27.5%	26.5%	44.1%	15.7%	9.8%	44.1%	6.9%
	60～69歳	78	18	22	16	14	31	19	9	51	7
		100.0%	23.1%	28.2%	20.5%	17.9%	39.7%	24.4%	11.5%	65.4%	9.0%
	70歳以上	37	4	12	10	1	18	9	5	22	4
		100.0%	10.8%	32.4%	27.0%	2.7%	48.6%	24.3%	13.5%	59.5%	10.8%
	その他	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地	中都市 (那覇市)	195	35	49	45	44	78	38	14	91	11
		100.0%	17.9%	25.1%	23.1%	22.6%	40.0%	19.5%	7.2%	46.7%	5.6%
	小都市(名護市・石垣市)	175	50	49	51	56	89	42	26	78	7
		100.0%	28.6%	28.0%	29.1%	32.0%	50.9%	24.0%	14.9%	44.6%	4.0%
	町村(北谷町・玉城村)	76	17	12	15	20	24	14	5	34	9
		100.0%	22.4%	15.8%	19.7%	26.3%	31.6%	18.4%	6.6%	44.7%	11.8%
その他	2	1	0	0	0	0	0	0	2	1	
	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	

2 利用施設

問10 あなたが過去一年間に趣味活動や学習活動するために、使われた施設はどんなところですか。
(4つまで選んでください)

1. 公民館	8. 会社の研修施設	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
2. 図書館	9. 民間のカルチャーセンター	
3. 博物館	10. 民間のお稽古場	
4. 青少年施設	11. 学校の施設	
5. 婦人施設	12. 個人の家	
6. 老人福祉施設	13. その他	
7. スポーツ施設	14. この一年間に施設を使わなかった	

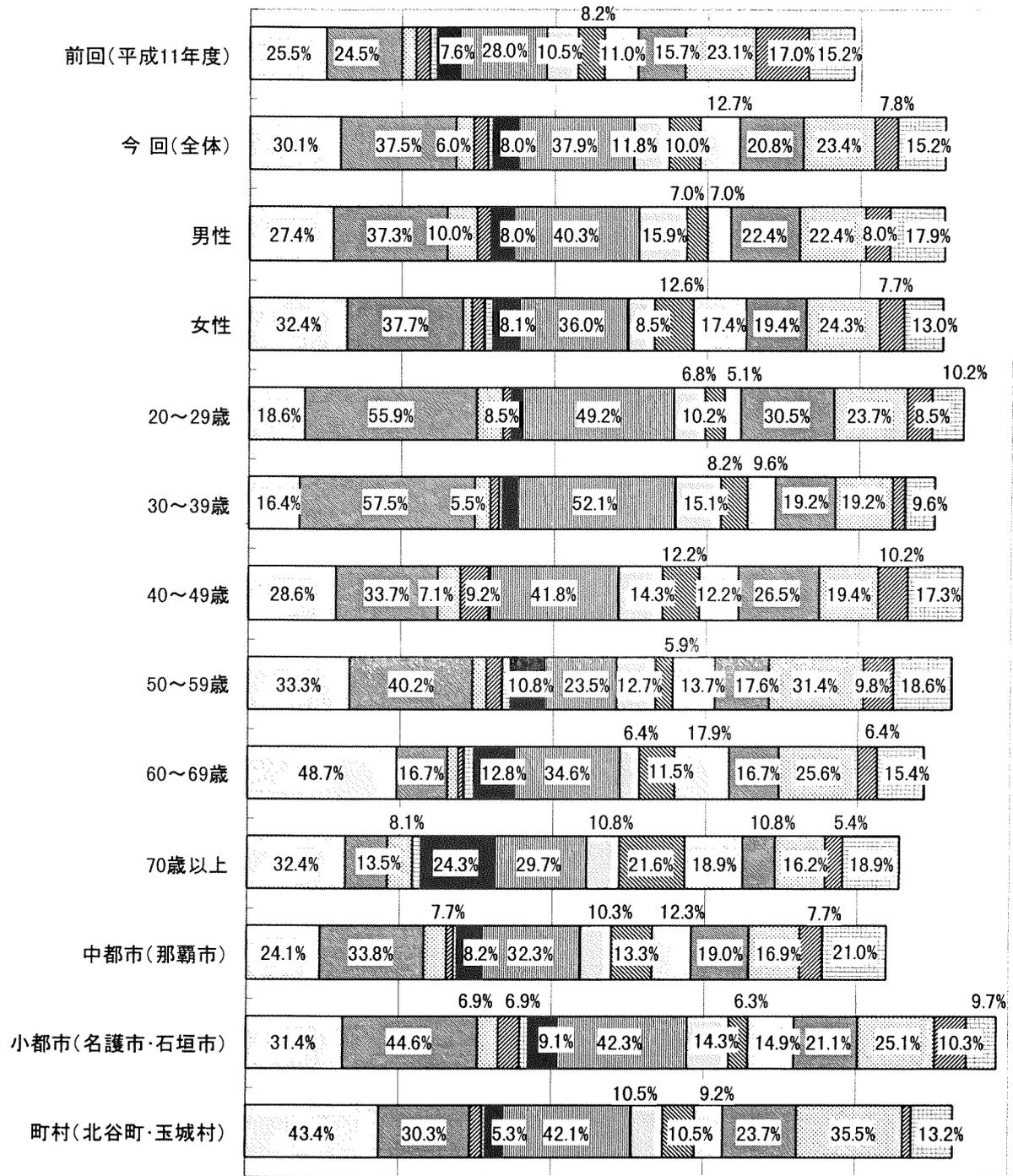
過去1年間に利用した施設について、「スポーツ施設」が37.9%と高く、以下、「図書館」(37.5%)、「公民館」(30.1%)、「個人の家」(23.4%)、「学校の施設」(20.8%)と、上位5項目が2割以上を示している。

前回調査と比較すると、「スポーツ施設」、「図書館」、「公民館」「個人の家」の4位までは、前回同様に上位にあげられており、特に3位までは割合も高くなっている。依然として「スポーツ施設」や「図書館」、「公民館」については、学習活動の重要な施設となっている中で、今回「学校の施設」が5位にあげられ、利用施設としての重要性が増してきている。近年進められている学社連携・融合にともなう学校施設の地域への解放の影響が考えられるところである。

	今回順位 (%)	前回順位 (%)
スポーツ施設	1 (37.9%)	1 (28.0%)
図書館	2 (37.5%)	3 (24.5%)
公民館	3 (30.1%)	2 (25.5%)
個人の家	4 (23.4%)	4 (23.1%)
学校の施設	5 (20.8%)	(その他:17.0%) (学校の施設:15.7%)

男女別にみると、ほとんどの項目において、利用施設の男女の差は小さい状況にある。その中で「民間のお稽古場」については、女性17.4%が男性の7.0%を1割ほど上回っており、民間施設の利用が比較的高い状況がうかがえる。

年齢別にみると、「スポーツ施設」が30歳代52.1%と他の年代を引き離して最も割合が高く、以下、20歳代49.2%、40歳代41.8%、60歳代34.6%と続いている。「公民館」については年齢が高くなるにつれて、利用の割合が増えており、60歳代以上で48.7% (全体30.1%) と高くなっている。「図書館」については30歳代で57.5%と高く、続いて20歳代55.9%、50歳代40.2%と中年層から若年層の利用が多い状況にある。



- ①公民館
- ▨ ②図書館
- ▩ ③博物館
- ▧ ④青少年施設
- ▦ ⑤婦人施設
- ⑥老人福祉施設
- ▤ ⑦スポーツ施設
- ▥ ⑧会社の研修施設
- ⑨民間のカルチャーセンター
- ⑩民間のお稽古場
- ▣ ⑪学校の施設
- ▩ ⑫個人の家
- ▨ ⑬その他
- ▩ ⑭使わなかった

	標 本 数	過去一年間に生涯学習活動のために使用した施設															
		1. 公民館	2. 図書館	3. 博物館	4. 青少年施設	5. 婦人施設	6. 老人福祉施設	7. スポーツ施設	8. 会社の研修施設	9. 民間のカルチャーセンター	10. 民間のお稽古場	11. 学校の施設	12. 個人の家	13. その他	14. 使わなかった		
前回 (平成11年度)	607	155	149	27	29	14	46	170	64	50	67	95	140	103	92		
	100.0%	25.5%	24.5%	4.4%	4.8%	2.3%	7.6%	28.0%	10.5%	8.2%	11.0%	15.7%	23.1%	17.0%	15.2%		
今回 (全体)	448	135	168	27	19	8	36	170	53	45	57	93	105	35	68		
	100.0%	30.1%	37.5%	6.0%	4.2%	1.8%	8.0%	37.9%	11.8%	10.0%	12.7%	20.8%	23.4%	7.8%	15.2%		
性別 男性	201	55	75	20	9	0	16	81	32	14	14	45	45	16	36		
	100.0%	27.4%	37.3%	10.0%	4.5%	0.0%	8.0%	40.3%	15.9%	7.0%	7.0%	22.4%	22.4%	8.0%	17.9%		
女性	247	80	93	7	10	8	20	89	21	31	43	48	60	19	32		
	100.0%	32.4%	37.7%	2.8%	4.0%	3.2%	8.1%	36.0%	8.5%	12.6%	17.4%	19.4%	24.3%	7.7%	13.0%		
年齢	20～29歳	59	11	33	5	2	0	2	29	6	4	3	18	14	5	6	
		100.0%	18.6%	55.9%	8.5%	3.4%	0.0%	3.4%	49.2%	10.2%	6.8%	5.1%	30.5%	23.7%	8.5%	10.2%	
	30～39歳	73	12	42	4	2	1	3	38	11	6	7	14	14	3	7	
		100.0%	16.4%	57.5%	5.5%	2.7%	1.4%	4.1%	52.1%	15.1%	8.2%	9.6%	19.2%	19.2%	4.1%	9.6%	
	40～49歳	98	28	33	7	9	0	1	41	14	12	12	26	19	10	17	
		100.0%	28.6%	33.7%	7.1%	9.2%	0.0%	1.0%	41.8%	14.3%	12.2%	12.2%	26.5%	19.4%	10.2%	17.3%	
	50～59歳	102	34	41	5	5	3	11	24	13	6	14	18	32	10	19	
		100.0%	33.3%	40.2%	4.9%	4.9%	2.9%	10.8%	23.5%	12.7%	5.9%	13.7%	17.6%	31.4%	9.8%	18.6%	
	60～69歳	78	38	13	3	1	3	10	27	5	9	14	13	20	5	12	
		100.0%	48.7%	16.7%	3.8%	1.3%	3.8%	12.8%	34.6%	6.4%	11.5%	17.9%	16.7%	25.6%	6.4%	15.4%	
	70歳以上	37	12	5	3	0	1	9	11	4	8	7	4	6	2	7	
		100.0%	32.4%	13.5%	8.1%	0.0%	2.7%	24.3%	29.7%	10.8%	21.6%	18.9%	10.8%	16.2%	5.4%	18.9%	
	その他	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	居住地	中都市 (那覇市)	195	47	66	15	4	2	16	63	20	26	24	37	33	15	41
			100.0%	24.1%	33.8%	7.7%	2.1%	1.0%	8.2%	32.3%	10.3%	13.3%	12.3%	19.0%	16.9%	7.7%	21.0%
小都市(名護市・石垣市)		175	55	78	12	12	5	16	74	25	11	26	37	44	18	17	
		100.0%	31.4%	44.6%	6.9%	6.9%	2.9%	9.1%	42.3%	14.3%	6.3%	14.9%	21.1%	25.1%	10.3%	9.7%	
町村(北谷町・玉城村)		76	33	23	0	3	1	4	32	8	8	7	18	27	2	10	
		100.0%	43.4%	30.3%	0.0%	3.9%	1.3%	5.3%	42.1%	10.5%	10.5%	9.2%	23.7%	35.5%	2.6%	13.2%	
その他	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0		
	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%		

3 生涯学習活動の目的

問9 あなたが学習や文化活動、スポーツ活動しているときの目的は、どんなことでしょうか。(5つまで選んでください)

1. 職業に必要な知識や技術を高めるため	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
2. 職業などに必要な資格を得るため	
3. 社会の変化に遅れないため	
4. 趣味を生かし生活に生きがいを持つため	
5. 老後の生活を豊かにするため	
6. 家庭生活に必要な知識や技術を高めるため	
7. 気のあった仲間とともに学習し向上するため	
8. 地域社会にいつそ役立てるため	
9. 健康に役立てるため	
10. その他	

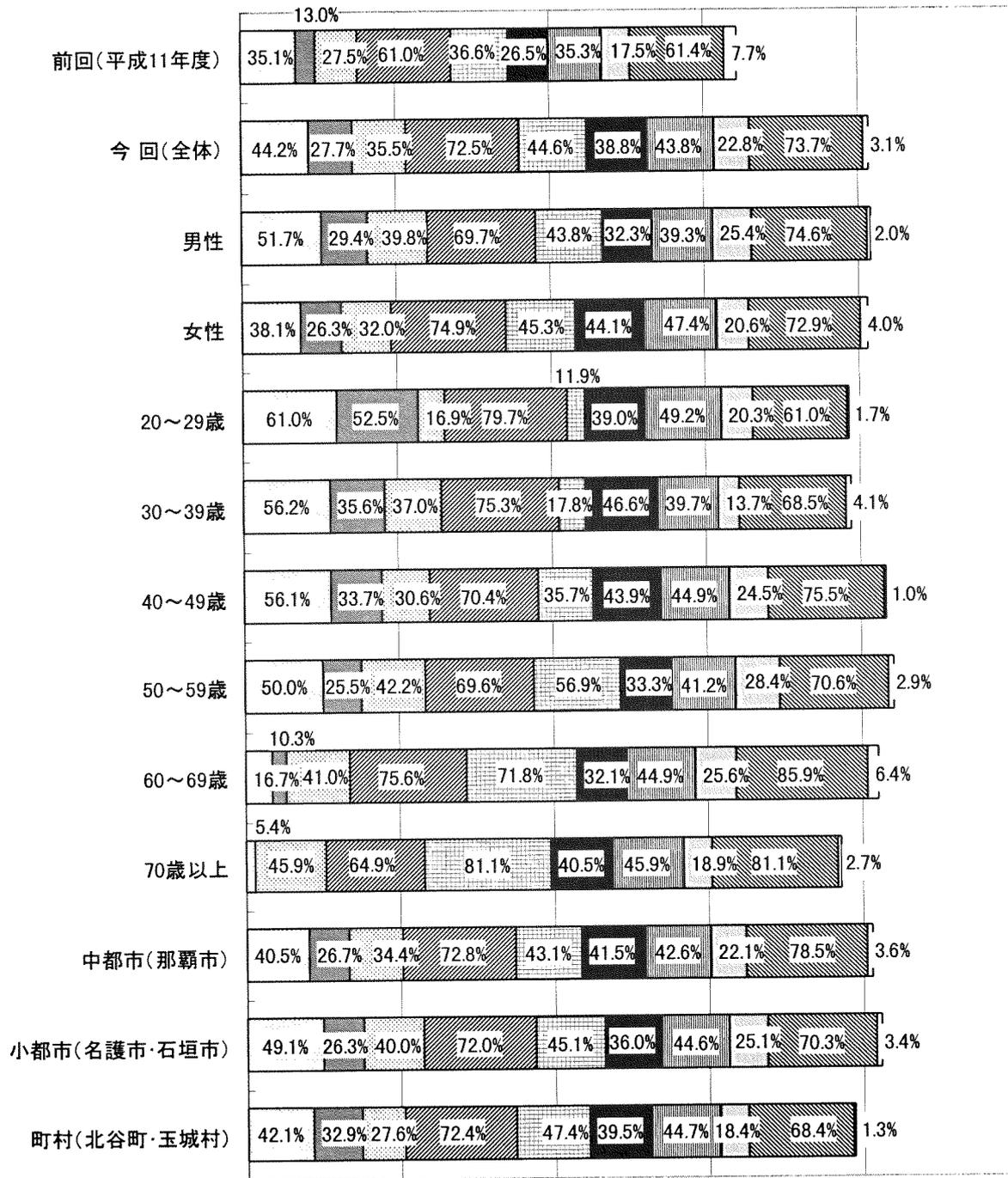
学習・文化活動・スポーツ活動の目的について、「健康に役立てるため」73.7%と「趣味を生かし生活に生きがいを持つため」72.5%の2項目が最も高い割合である。以下「老後の生活を豊かにするため」44.6%、「職業に必要な知識や技能を高めるため」44.2%、「気のあった仲間とともに学習し向上するため」43.8%の3項目が4割台を占め比較的高い。

前回調査と比較すると、「健康に役立てるため」と「趣味を生かし生活に生きがいを持つため」が前回同様に高い割合で1位・2位を占め、3位に「老後の生活を豊かにするため」と続いている。4位と5位は入れ替わったが、割合としてはほぼ同じである。主に健康づくりや日常生活に役立てるために生涯学習の活動を行っていることがうかがえる。また、特徴的なのは、この上位5項目の割合がそれぞれ前回より約1割高くなっており、目的が明確になってきている状況にある。同様に「職業に必要な知識や技能を高めるため」、「気のあった仲間とともに学習し向上するため」の2項目についても、前回同様に4位～5位を占めている。

	今回の順位 (%)	前回の調査 (%)
健康に役立てるため	1 (73.7%)	1 (61.4%)
趣味を生かし生活に生きがいを持つため	2 (72.5%)	2 (61.0%)
老後の生活を豊かにするため	3 (44.6%)	3 (36.6%)
職業に必要な知識や技能を高めるため	4 (44.2%)	5 (35.1%)
気のあった仲間とともに学習し向上するため	5 (43.8%)	4 (35.3%)

男女別にみると、男性が女性を上回っている項目は、「職業に必要な知識や技能を高めるため」(男性51.7%、女性38.1%)、「社会の変化におくれないため」(男性39.8%、女性32.0%)の2項目が主な目的となっている。逆に、女性が男性を上回っている項目は、「家庭生活に必要な知識や技術を高めるため」(女性44.1%、男性32.3%)「気のあった仲間とともに学習し向上するため」(女性47.4%、男性39.3%)、「趣味を生かし生活に生きがいを持つため」(女性74.9%、男性69.7%)の3項目が主な目的となっている。

年代別にみると、「老後の生活を豊かにするため」については年齢が高くなるにつれて割合が高くなっており、特に70歳以上で81.1%を占めている。また、「健康に役立てるため」についても高齢層で割合が高く、60歳代で85.9%となっている。一方、「職業に必要な知識や技能を高めるため」と「職業などに必要な資格を得るため」については年代が若いほど割合が高く、特に20歳代でそれぞれ61.0%、52.5%と高い。「趣味を活かし生活に生きがいを持つため」については各年齢層において、6割以上の割合を占め、各世代にわたって共通した主要な目的となっている。



- ①職業に必要な知識や技術を高めるため
- ②職業などに必要な資格を得るため
- ▨ ③社会の変化に遅れないため
- ▩ ④生活に生きがいを持つため
- ▧ ⑤老後の生活を豊かにするため
- ⑥家庭生活に必要な知識や技術を高めるため
- ▨ ⑦仲間とともに学習し向上するため
- ▩ ⑧地域社会にいつそう役立つため
- ▧ ⑨健康に役立つため
- ⑩その他

	標 本 数	学習や文化活動、スポーツ活動の目的											
		1. 職業に必要な知識や技術を 高めるため	2. 職業などに必要な資格を得 るため	3. 社会の変化に遅れないため	4. 生活に生きがいを持つため	5. 老後の生活を豊かにするため	6. 家庭生活に必要な知識や技 術を高めるため	7. 仲間とともに学習し向上す るため	8. 地域社会にいつそう役立てる ため	9. 健康に役立てるため	10. その他		
前回 (平成11年度)	607	213	79	167	370	222	161	214	106	373	47		
	100.0%	35.1%	13.0%	27.5%	61.0%	36.6%	26.5%	35.3%	17.5%	61.4%	7.7%		
今回(全体)	448	198	124	159	325	200	174	196	102	330	14		
	100.0%	44.2%	27.7%	35.5%	72.5%	44.6%	38.8%	43.8%	22.8%	73.7%	3.1%		
性別 男性	201	104	59	80	140	88	65	79	51	150	4		
	100.0%	51.7%	29.4%	39.8%	69.7%	43.8%	32.3%	39.3%	25.4%	74.6%	2.0%		
女性	247	94	65	79	185	112	109	117	51	180	10		
	100.0%	38.1%	26.3%	32.0%	74.9%	45.3%	44.1%	47.4%	20.6%	72.9%	4.0%		
年齢	20～29歳	59	36	31	10	47	7	23	29	12	36	1	
		100.0%	61.0%	52.5%	16.9%	79.7%	11.9%	39.0%	49.2%	20.3%	61.0%	1.7%	
	30～39歳	73	41	26	27	55	13	34	29	10	50	3	
		100.0%	56.2%	35.6%	37.0%	75.3%	17.8%	46.6%	39.7%	13.7%	68.5%	4.1%	
	40～49歳	98	55	33	30	69	35	43	44	24	74	1	
		100.0%	56.1%	33.7%	30.6%	70.4%	35.7%	43.9%	44.9%	24.5%	75.5%	1.0%	
	50～59歳	102	51	26	43	71	58	34	42	29	72	3	
		100.0%	50.0%	25.5%	42.2%	69.6%	56.9%	33.3%	41.2%	28.4%	70.6%	2.9%	
	60～69歳	78	13	8	32	59	56	25	35	20	67	5	
		100.0%	16.7%	10.3%	41.0%	75.6%	71.8%	32.1%	44.9%	25.6%	85.9%	6.4%	
	70歳以上	37	2	0	17	24	30	15	17	7	30	1	
		100.0%	5.4%	0.0%	45.9%	64.9%	81.1%	40.5%	45.9%	18.9%	81.1%	2.7%	
	その他	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	居住地	中都市 (那覇市)	195	79	52	67	142	84	81	83	43	153	7
			100.0%	40.5%	26.7%	34.4%	72.8%	43.1%	41.5%	42.6%	22.1%	78.5%	3.6%
小都市(名護市 石垣市)		175	86	46	70	126	79	63	78	44	123	6	
		100.0%	49.1%	26.3%	40.0%	72.0%	45.1%	36.0%	44.6%	25.1%	70.3%	3.4%	
町村(北谷町・ 玉城町)		76	32	25	21	55	36	30	34	14	52	1	
		100.0%	42.1%	32.9%	27.6%	72.4%	47.4%	39.5%	44.7%	18.4%	68.4%	1.3%	
その他	2	1	1	1	2	1	0	1	1	2	0		
	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%		

4 生涯学習活動で役立ったこと

(1) 役立ったことの有無

問 11 学習活動したり、学習に参加したりして、役立つことができましたか。(1つ選んで下さい)

1. とても多かった	3. あまりなかった	<input type="checkbox"/>
2. かなりあった	4. まったくなかった	

「かなりあった」が 42.2%と最も高く、「とても多かった」21.2%を合わせると、学習活動の効果を感じている人は 63.4%と、全体の約6割強を占めている。

前回の調査と比較すると、「かなりあった」が前回と同様に最も高い割合となり、「とても多かった」「かなりあった」については前回の 58.9%より 4.5%若干増加している。

	今回の順位 (%)	前回の調査 (%)
かなりあった	1 (42.2%)	1 (39.0%)
とてもあった	2 (21.2%)	2 (19.9%)
あまりなかった	3 (20.8%)	3 (17.8%)
まったくなかった	4 (2.7%)	4 (3.8%)

男女別にみると、男性、女性ともに同様な傾向にあり、差はほとんどない。

年代別にみると、「とても多かった」が 20 歳代 27.1%、30 歳代 24.7%、40 歳代 24.5%と全体の 21.2%を上回り、若年層の割合が高くなっている。「かなりあった」が 30 歳代 53.4%、70 歳代 45.9%、50 歳代 44.1%と全体の 42.2%を上回っている。一方、「あまりなかった」が 20 歳代 32.2%となっており、20 歳代での学習活動の効果②に対する認識としては比較的低い結果となっている。

総合評価として、ポイントで数値化する。計算式、指標は以下のとおりである。

$$\text{総合評価} = \{(\text{「とても多かった」の割合}) \times 2 + (\text{「かなりあった」の割合}) \times 1 + (\text{「あまりなかった」の割合}) \times (-1) + (\text{「まったくなかった」の割合}) \times (-2)\} / (100 - \text{無回答の割合}) \times 100$$

「とても多かった」→2ポイント 「かなりあった」→1ポイント
 「あまりなかった」→-1ポイント 「まったくなかった」→-2ポイント
 * 無回答は総合的評価の計算から除外

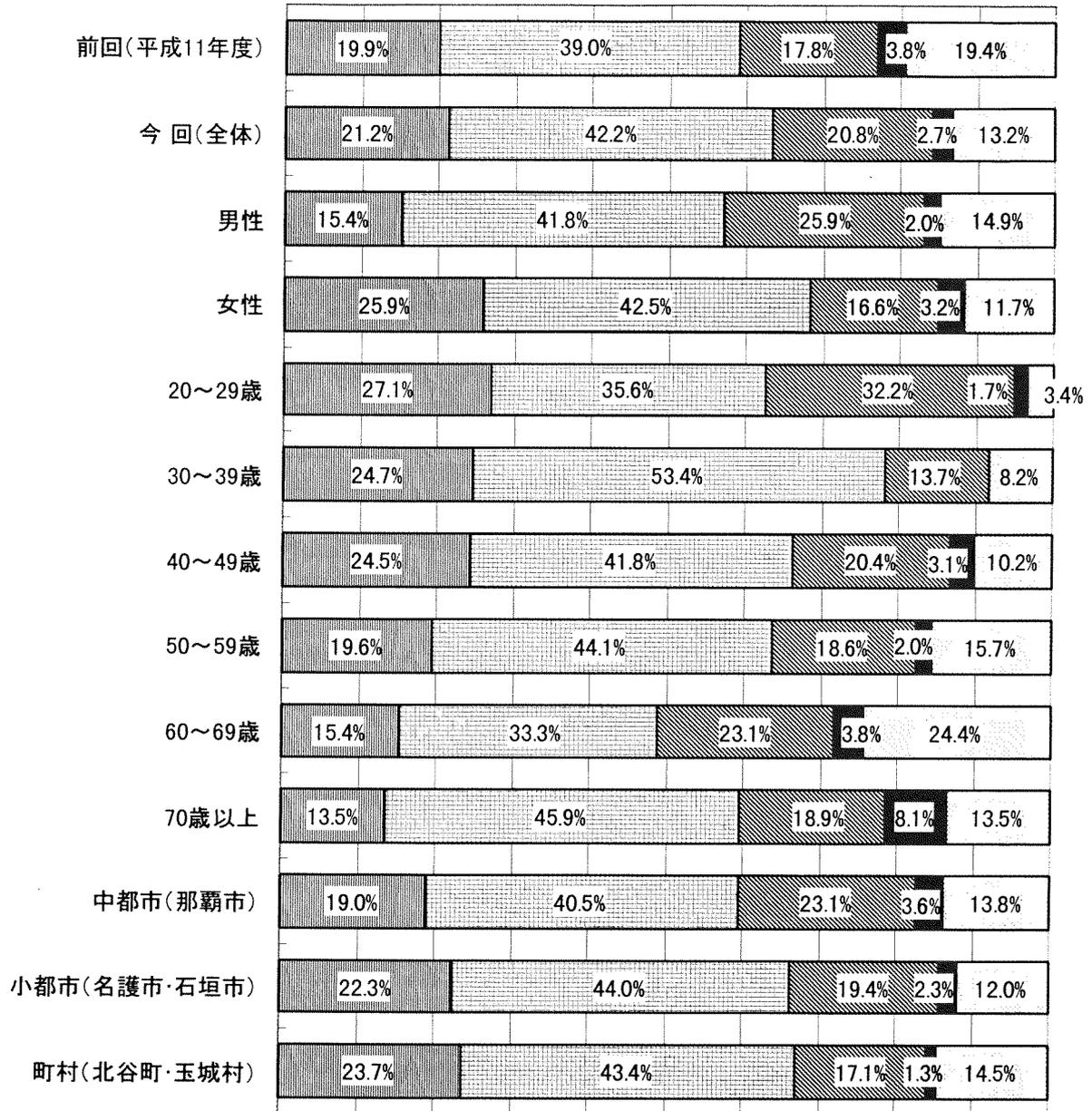
年齢別総合評価は下表のとおりである。

総合評価が最も高いのが、30 歳代の 0.891 ポイントであり、学習活動の効果を感じていることがわかる。次に 40 歳代 0.640 ポイント、50 歳代 0.609 ポイントとなっている。

(単位:ポイント)

年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
総合評価	0.543	0.891	0.640	0.609	0.334	0.379

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ ①とても多かった ■ ②かなりあった ■ ③あまりなかった
 ■ ④まったくなかった □ ⑤無回答

		標 本 数	学習活動で役立ったことの有無				
			1. とても多 かった	2. かなりあ った	3. あまりな かった	4. まった くなく かった	5. 無回 答
前回(平成11年度)		607	121	237	108	23	118
		100.0%	19.9%	39.0%	17.8%	3.8%	19.4%
今回(全体)		448	95	189	93	12	59
		100.0%	21.2%	42.2%	20.8%	2.7%	13.2%
性別	男性	201	31	84	52	4	30
		100.0%	15.4%	41.8%	25.9%	2.0%	14.9%
性別	女性	247	64	105	41	8	29
		100.0%	25.9%	42.5%	16.6%	3.2%	11.7%
年齢	20～29歳	59	16	21	19	1	2
		100.0%	27.1%	35.6%	32.2%	1.7%	3.4%
	30～39歳	73	18	39	10	0	6
		100.0%	24.7%	53.4%	13.7%	0.0%	8.2%
	40～49歳	98	24	41	20	3	10
		100.0%	24.5%	41.8%	20.4%	3.1%	10.2%
	50～59歳	102	20	45	19	2	16
		100.0%	19.6%	44.1%	18.6%	2.0%	15.7%
	60～69歳	78	12	26	18	3	19
		100.0%	15.4%	33.3%	23.1%	3.8%	24.4%
	70歳以上	37	5	17	7	3	5
		100.0%	13.5%	45.9%	18.9%	8.1%	13.5%
	無回答	1	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
居住地	中都市 (那覇市)	195	37	79	45	7	27
		100.0%	19.0%	40.5%	23.1%	3.6%	13.8%
	小都市(名護市 ・石垣市)	175	39	77	34	4	21
		100.0%	22.3%	44.0%	19.4%	2.3%	12.0%
	町村(北谷町・ 玉城村)	76	18	33	13	1	11
		100.0%	23.7%	43.4%	17.1%	1.3%	14.5%
無回答	2	1	0	1	0	0	
	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	

(2) 役立った内容

問12 役に立ったことは、どれですか。(3つ選んでください)

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 必要な知識・技術が高められた | <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> |
| 2. 生活をよくするために役立った | |
| 3. 学習の楽しみがわかった | |
| 4. 必要な資格を得られた | |
| 5. 働くほかに生きがいをもてた | |
| 6. 地域の活動に参加できるようになった | |
| 7. 新しい友達を得て人間関係が広がった | |
| 8. その他 () | |

この設問は、前問(問10)の学習活動の効果がある(「1. とても多くあった」、「2. かなりあった」のいずれかを選択した方)と回答した方を対象にしており、生涯学習で役立ったことの内容を把握している。

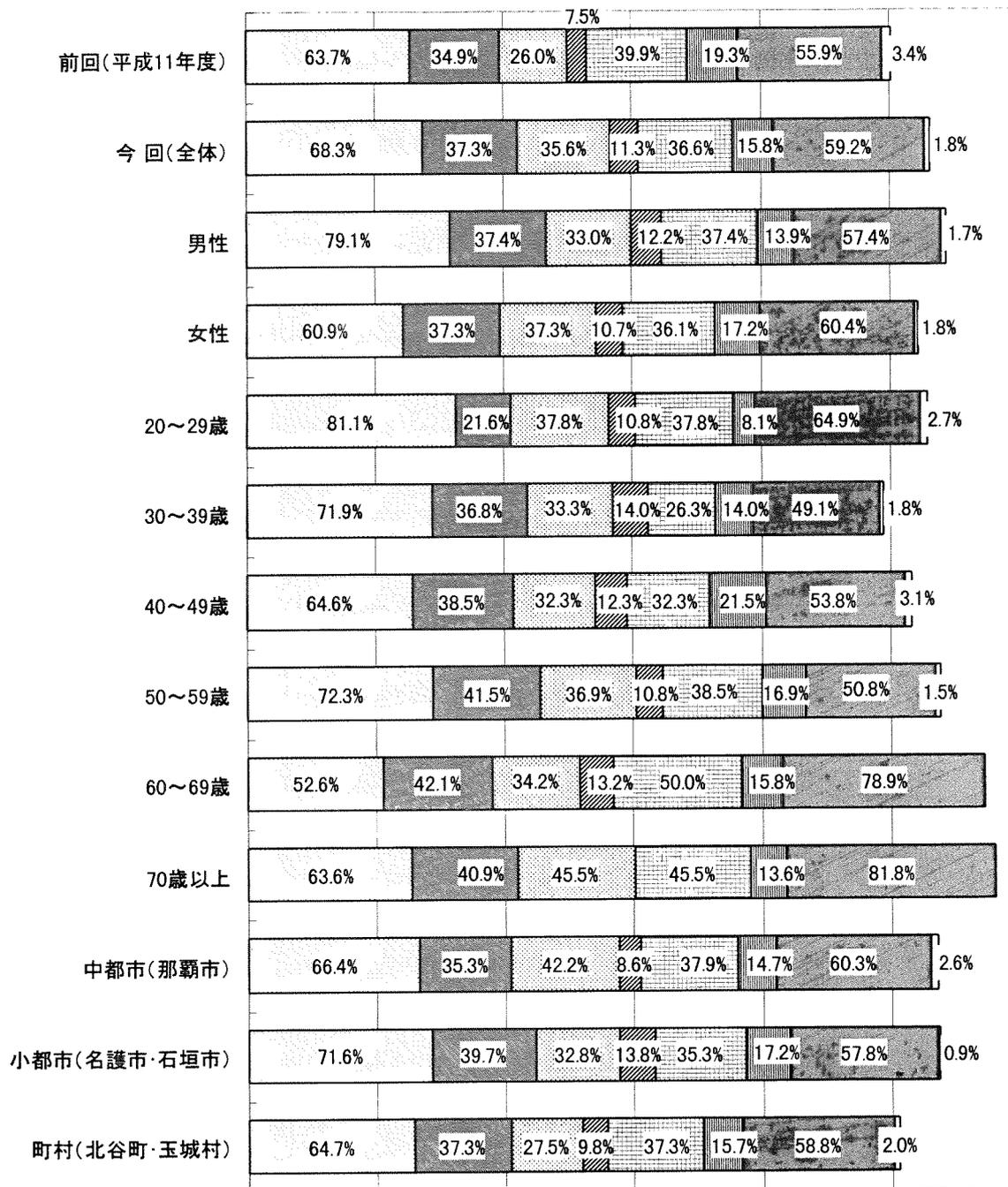
生涯学習で役立ったことについて、「必要な知識・技術が高められた」が68.3%と最も多く、次に「新しい友達を得て人間関係が広がった」59.2%、以下「生活をよくするために役立った」37.3%、「働くほかに生きがいをもてた」36.6%と続いている。

特に「必要な知識・技術が高められた」と「新しい友達を得て人間関係が広がった」の上位2項目は前回同様に割合が高い。自己の能力に向上とともに、交友関係などの交流が広がったことが主な評価であり、結果的に生きがいや生活の改善、楽しみなど充実した生活を送る上で役に立っていることが基本となっているといえよう。

	今回の順位 (%)	前回の調査 (%)
必要な知識・技術が高められた	1 (68.3%)	1 (63.7%)
新しい友達を得て人間関係が広がった	2 (59.2%)	2 (55.9%)
生活をよくするために役立った	3 (37.3%)	4 (34.9%)
働くほかに生きがいをもてた	4 (36.6%)	3 (39.9%)
学習の楽しみがわかった	5 (35.6%)	5 (26.0%)
地域の活動に参加できるようになった	6 (15.8%)	6 (19.3%)
必要な資格を得られた	7 (11.3%)	7 (7.5%)

男女別にみると、男性が女性を上回っている項目は、「必要な知識・技術が高められた」(男性79.1%、女性60.9%)、「働くほかに生きがいをもてた」(男性37.4%、女性36.1%)である。女性が男性を上回っている項目は、「学習の楽しみがわかった」(女性37.3%、男性33.0%)である。

年代別にみると、「必要な知識・技術が高められた」が20歳代で81.1%と最も高く、以下、50歳代72.3%、30歳代71.9%、40歳代64.6%で高い割合である。70歳代以上では、「学習の楽しみがわかった」が45.5%(全体35.6%)と他年代に比べて高く、また、60歳代では「働くほかに生きがいをもてた」が50.0%(全体36.6%)と他年代に比べて高い。



- ① 必要な知識や技術が高められた
- ② 生活をよくするために役立った
- ▨ ③ 学習の楽しみがわかった
- ▩ ④ 必要な資格を得られた
- ▧ ⑤ 働くほかに生きがいをもてた
- ▦ ⑥ 地域の活動に参加できるようになった
- ▤ ⑦ 新しい友達を得て人間関係が広がった
- ⑧ その他

	標 本 数	役に立ったこと									
		1. 必要知識や技術が 高められた	2. 生活をよくするため に役立った	3. 学習の楽しみがわかっ た	4. 必要な資格を得られ た	5. 働くほかに生きがい をもてた	6. 地域の活動に参加で きるようになった	7. 新しい友達を得て人 間関係が広がった	8. その他	9. 無回答	
前回 (平成11年度)	358	228	125	93	27	143	69	200	12	2	
	100.0%	63.7%	34.9%	26.0%	7.5%	39.9%	19.3%	55.9%	3.4%	0.6%	
今回(全体)	284	194	106	101	32	104	45	168	5	0	
	100.0%	68.3%	37.3%	35.6%	11.3%	36.6%	15.8%	59.2%	1.8%	0.0%	
性別	男性	115	91	43	38	14	43	16	66	2	0
		100.0%	79.1%	37.4%	33.0%	12.2%	37.4%	13.9%	57.4%	1.7%	0.0%
	女性	169	103	63	63	18	61	29	102	3	0
		100.0%	60.9%	37.3%	37.3%	10.7%	36.1%	17.2%	60.4%	1.8%	0.0%
年齢	20～29歳	37	30	8	14	4	14	3	24	1	0
		100.0%	81.1%	21.6%	37.8%	10.8%	37.8%	8.1%	64.9%	2.7%	0.0%
	30～39歳	57	41	21	19	8	15	8	28	1	0
		100.0%	71.9%	36.8%	33.3%	14.0%	26.3%	14.0%	49.1%	1.8%	0.0%
	40～49歳	65	42	25	21	8	21	14	35	2	0
		100.0%	64.6%	38.5%	32.3%	12.3%	32.3%	21.5%	53.8%	3.1%	0.0%
	50～59歳	65	47	27	24	7	25	11	33	1	0
		100.0%	72.3%	41.5%	36.9%	10.8%	38.5%	16.9%	50.8%	1.5%	0.0%
	60～69歳	38	20	16	13	5	19	6	30	0	0
		100.0%	52.6%	42.1%	34.2%	13.2%	50.0%	15.8%	78.9%	0.0%	0.0%
70歳以上	22	14	9	10	0	10	3	18	0	0	
	100.0%	63.6%	40.9%	45.5%	0.0%	45.5%	13.6%	81.8%	0.0%	0.0%	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
居住地	中都市 (那覇市)	116	77	41	49	10	44	17	70	3	0
		100.0%	66.4%	35.3%	42.2%	8.6%	37.9%	14.7%	60.3%	2.6%	0.0%
	小都市(名護市 ・石垣市)	116	83	46	38	16	41	20	67	1	0
		100.0%	71.6%	39.7%	32.8%	13.8%	35.3%	17.2%	57.8%	0.9%	0.0%
	町村(北谷町・ 玉城村)	51	33	19	14	5	19	8	30	1	0
100.0%		64.7%	37.3%	27.5%	9.8%	37.3%	15.7%	58.8%	2.0%	0.0%	
その他	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	

5 学習成果の活用状況

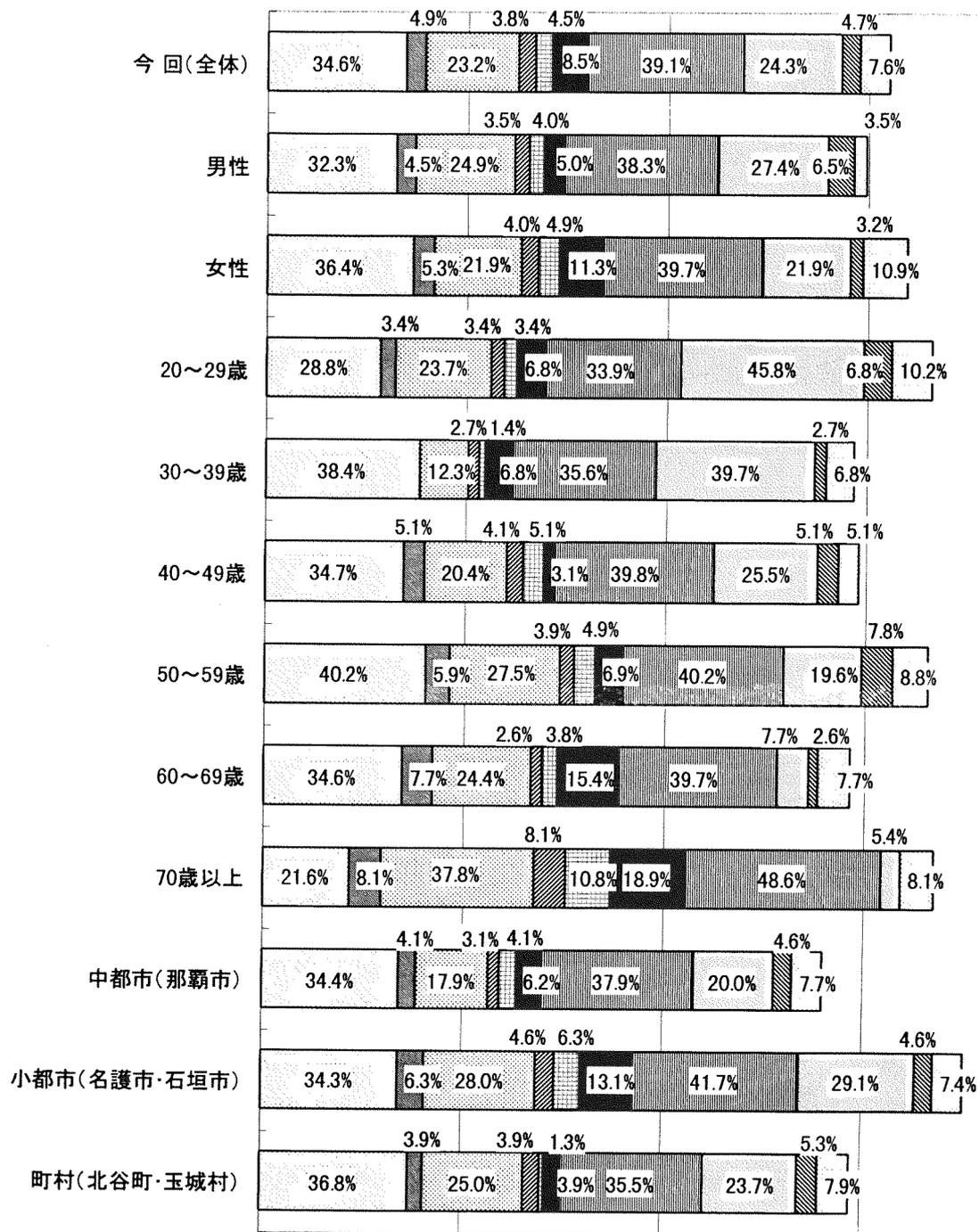
問 21 あなたの学習成果の活用状況をお聞きします。番号を選んで下さい。(いくつでも選んでください)

1. 特に活用していない	<input type="checkbox"/>
2. 講座・教室・講演などの講師	<input type="checkbox"/>
3. 同好のグループやサークルづくり、または参加	<input type="checkbox"/>
4. 自主的な団体活動(国際交流・環境問題・消費者問題等の社会的課題)	<input type="checkbox"/>
5. 学習ボランティア(学習相談・学習アシスタント・青少年団・グループの指導者等)	<input type="checkbox"/>
6. 上記以外のボランティア(福祉分野等)	<input type="checkbox"/>
7. 日常生活の向上(家庭生活の改善・健康管理等の向上)	<input type="checkbox"/>
8. 職業生活への活用(転職・資格取得・仕事の合理化等)	<input type="checkbox"/>
9. 上記以外の活用	<input type="checkbox"/>
10. 学習成果の発表(発表会・展示会・発表紙などの発行)	<input type="checkbox"/>

学習成果の活用をみると、「日常生活の向上」が39.1%と最も高く、次に「特に活用していない」(34.6%)、「職業生活への活用」(24.3%)、「同好のグループやサークルづくり、参加」(23.2%)が主なものとして続いている。自分自身の生活の質的向上に寄与している状況がほとんどであることがうかがえる一方、特に活用していないと答えた割合が2位を占め高くなっており、学習成果の地域などへの社会的還元がまだまだ少ない状況にある。

男女別でみても大きな差はなく、同じ傾向を示している。

年代別では、若い年代ほど「職業生活への活用」の割合が高い傾向にあり、特に20歳台で45.8%、30歳台で39.7%と高い。



- ①特に活用していない
- ②講座・教室・講演などの講師
- ▨ ③同好のグループやサークルづくり、参加
- ▨ ④自主的な団体活動
- ▨ ⑤学習ボランティア
- ⑥上記以外のボランティア
- ▨ ⑦日常生活の向上
- ⑧職業生活への活用
- ▨ ⑨上記以外の活用
- ⑩学習成果の発表

	標 本 数	学習成果の活用状況										
		1. 特に活用していない	2. 講座・教室・講演などの講師	3. 同好のグループやサークル づくり、参加	4. 自主的な団体活動	5. 学習卓ボランティア	6. 上記以外のボランティア	7. 日常生活の向上	8. 職業生活の活用	9. 上記以外の活用	10. 学習成果の発表	
今 回(全体)	448	155	22	104	17	20	38	175	109	21	34	
	100.0%	34.6%	4.9%	23.2%	3.8%	4.5%	8.5%	39.1%	24.3%	4.7%	7.6%	
性 別	男性	201	65	9	50	7	8	10	77	55	13	7
		100.0%	32.3%	4.5%	24.9%	3.5%	4.0%	5.0%	38.3%	27.4%	6.5%	3.5%
	女性	247	90	13	54	10	12	28	98	54	8	27
		100.0%	36.4%	5.3%	21.9%	4.0%	4.9%	11.3%	39.7%	21.9%	3.2%	10.9%
年 齢	20～29 歳	59	17	2	14	2	2	4	20	27	4	6
		100.0%	28.8%	3.4%	23.7%	3.4%	3.4%	6.8%	33.9%	45.8%	6.8%	10.2%
	30～39 歳	73	28	0	9	2	1	5	26	29	2	5
		98.0%	38.4%	0.0%	12.3%	2.7%	1.4%	6.8%	35.6%	39.7%	2.7%	6.8%
	40～49 歳	98	34	5	20	4	5	3	39	25	5	5
		100.0%	34.7%	5.1%	20.4%	4.1%	5.1%	3.1%	39.8%	25.5%	5.1%	5.1%
	50～59 歳	102	41	6	28	4	5	7	41	20	8	9
		100.0%	40.2%	5.9%	27.5%	3.9%	4.9%	6.9%	40.2%	19.6%	7.8%	8.8%
	60～69 歳	78	27	6	19	2	3	12	31	6	2	6
		100.0%	34.6%	7.7%	24.4%	2.6%	3.8%	15.4%	39.7%	7.7%	2.6%	7.7%
	70 歳以上	37	8	3	14	3	4	7	18	2	0	3
		100.0%	21.6%	8.1%	37.8%	8.1%	10.8%	18.9%	48.6%	5.4%	0.0%	8.1%
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居 住 地	中都市 (那覇市)	195	67	8	35	6	8	12	74	39	9	15
		100.0%	34.4%	4.1%	17.9%	3.1%	4.1%	6.2%	37.9%	20.0%	4.6%	7.7%
	小都市(名護市・石垣市)	175	60	11	49	8	11	23	73	51	8	13
		100.0%	34.3%	6.3%	28.0%	4.6%	6.3%	13.1%	41.7%	29.1%	4.6%	7.4%
	町村(北谷町・玉城村)	76	28	3	19	3	1	3	27	18	4	6
		100.0%	36.8%	3.9%	25.0%	3.9%	1.3%	3.9%	35.5%	23.7%	5.3%	7.9%
その他	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	

6 学習や活動ができない理由

問 17 あなたが学習や活動ができない理由は何ですか。(3つまで選んで下さい)

1. 仕事・家事・育児などのため、時間がとれない
2. 身近に仲間がいない
3. 経費が多くかかる
4. 家庭や職場の人の理解や協力が得られない
5. どんな学習や活動があるかわからない
6. 適切な講師や指導者がいない
7. 身近に利用できる施設が少ない
8. 希望する内容にあった学習や活動の機会が少ない
9. 学習や活動をする必要を感じない
10. 体の具合が悪い
11. その他

生涯学習活動を阻害する要因について、「仕事・家事・育児のため、時間がとれない」が43.3%と最も高く、以下、「希望する内容に合った学習や活動の機会がない」38.8%、「身近に利用できる施設が少ない」33.3%、「経費が多くかかる」28.3%、「どんな学習や活動があるかわからない」27.7%と続いている。

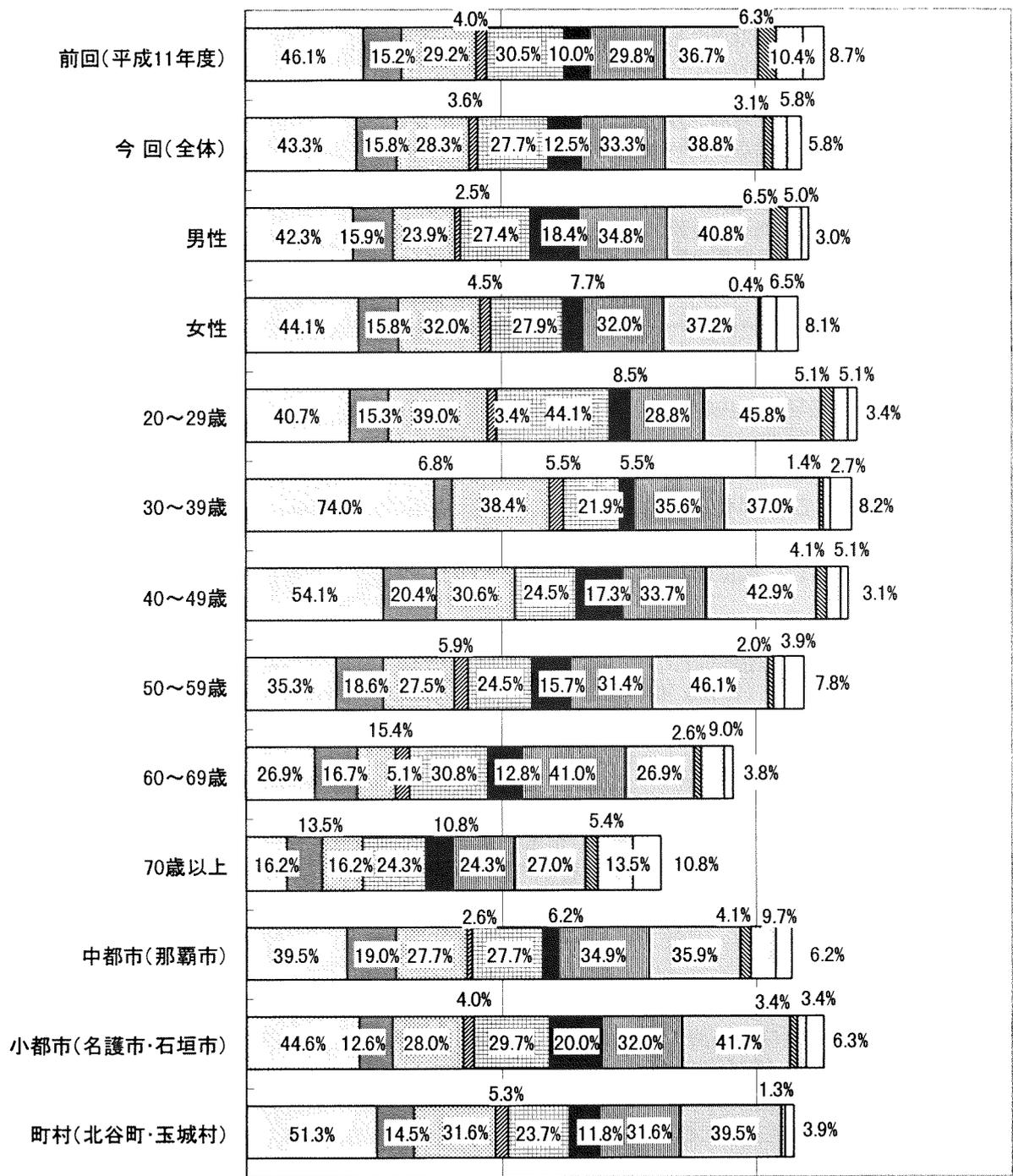
前回調査と比較すると、「仕事・家事・育児のため、時間がとれない」が前回と同様に今回も1位であり、学習活動のために時間がとれない人が多いことがわかる。前回4位の「身近に利用できる施設が少ない」が今回3位に順位を上げ、「経費が多くかかる」も前回5位から4位に順位を上げている。

	今回の順位 (%)	前回の調査 (%)
仕事・家事・育児の為、時間が取れない	1 (43.3%)	1 (46.1%)
希望する内容にあった学習や活動の機会が少ない	2 (38.8%)	2 (36.7%)
身近に利用できる施設が少ない	3 (33.3%)	4 (29.8%)
経費が多くかかる	4 (28.3%)	5 (29.2%)
どんな学習や活動があるかわからない	5 (27.7%)	3 (30.5%)

男女別にみると、女性が男性を上回っている項目は「経費が多くかかる」であり、女性32.0%に対し、男性23.9%である。一方、男性が女性を上回っている項目は、「適切な講師や指導者がいない」であり、男性(18.4%)が女性(7.7%)を1割上回っている。また、「仕事・家事・育児のため、時間がとれない」については、女性(44.1%)と男性(42.3%)ともに4割強を占めている。

年齢別にみると、「仕事・家事・育児のため、時間がとれない」が30歳代の74.0%と他年齢層と比べて最も高く、高年齢層は低い割合になっている。また、「どんな学習や活動があるかわからない」については、20歳代の44.1%が最も高い割合を占めている。「経費が多くかかる」も20歳代の39.0%が最も高く、年齢が増すにつれて低くなっている。「希望する内容にあった学習や活動の機会がない」が50歳代の46.1%が最も高く、次に20歳代の45.8%となっている。40歳代で割合が多い項目は、「希望する学習や活動の機会がない」42.9%、「身近に仲間がいない」20.4%、「適切な講師や指導者がいない」17.3%である。60歳以上の高年齢層では、「学習や活動をする必要を感じない」(70歳以上5.4%、60歳代2.6%)、「体の具合が悪い」(70歳以上13.5%、60歳代9.0%)が各年齢層よりも多い割合となっている。

活動の阻害要因上位5位のうち、「希望する内容に合った学習や活動の機会が少ない」、「どんな学習や活動があるかわからない」、「身近に利用できる施設が少ない」、「経費が多くかかる」については、各市町村の自治体や社会教育行政の取り組みにより改善が可能なものと考えられる。一方、「仕事・家事・育児などのため、時間がとれない」については、家事と育児の負担が女性に偏っていることが予想されるところであり、男女共同参画の視点から、各家庭において、男女がともに学習活動ができる環境づくりが望まれるところである。



- ① 仕事・家事などのため、時間がとれない
- ② 身近に仲間がない
- ▨ ③ 経費が多くなる
- ▩ ④ 家庭や職場の人の理解・協力が得られない
- ▧ ⑤ どんな学習や活動があるかわからない
- ⑥ 適切な講師や指導者がいない
- ▨ ⑦ 身近に利用できる施設が少ない
- ▩ ⑧ 希望する学習や活動の機会が少ない
- ▧ ⑨ 学習や活動するの必要を感じない
- ⑩ 体の具合が悪い
- ⑪ その他

	標 本 数	学習や活動ができない理由											
		1. 仕事・家事などのため、時間がとれない	2. 身近に仲間がいない	3. 経費が多くかかる	4. 家庭や職場の人の理解協力が得られない	5. どのような学習や活動があるかわからない	6. 適切な講師や指導者がいない	7. 身近に利用できる施設が少ない	8. 希望する学習や活動の機会が少ない	9. 学習や活動するの必要を感じない	10. 体の具合が悪い	11. その他	
前回 (平成11年度)	607	280	92	177	24	185	61	181	223	38	63	53	
	100.0%	46.1%	15.2%	29.2%	4.0%	30.5%	10.0%	29.8%	36.7%	6.3%	10.4%	8.7%	
今回(全体)	448	194	71	127	16	124	56	149	174	14	26	26	
	100.0%	43.3%	15.8%	28.3%	3.6%	27.7%	12.5%	33.3%	38.8%	3.1%	5.8%	5.8%	
性別	男性	201	85	32	48	5	55	37	70	82	13	10	6
		100.0%	42.3%	15.9%	23.9%	2.5%	27.4%	18.4%	34.8%	40.8%	6.5%	5.0%	3.0%
	女性	247	109	39	79	11	69	19	79	92	1	16	20
		100.0%	44.1%	15.8%	32.0%	4.5%	27.9%	7.7%	32.0%	37.2%	0.4%	6.5%	8.1%
年齢	20～29歳	59	24	9	23	2	26	5	17	27	3	3	2
		100.0%	40.7%	15.3%	39.0%	3.4%	44.1%	8.5%	28.8%	45.8%	5.1%	5.1%	3.4%
	30～39歳	73	54	5	28	4	16	4	26	27	1	2	6
		100.0%	74.0%	6.8%	38.4%	5.5%	21.9%	5.5%	35.6%	37.0%	1.4%	2.7%	8.2%
	40～49歳	98	53	20	30	0	24	17	33	42	4	5	3
		100.0%	54.1%	20.4%	30.6%	0.0%	24.5%	17.3%	33.7%	42.9%	4.1%	5.1%	3.1%
	50～59歳	102	36	19	28	6	25	16	32	47	2	4	8
		100.0%	35.3%	18.6%	27.5%	5.9%	24.5%	15.7%	31.4%	46.1%	2.0%	3.9%	7.8%
	60～69歳	78	21	13	12	4	24	10	32	21	2	7	3
		100.0%	26.9%	16.7%	15.4%	5.1%	30.8%	12.8%	41.0%	26.9%	2.6%	9.0%	3.8%
	70歳以上	37	6	5	6	0	9	4	9	10	2	5	4
		100.0%	16.2%	13.5%	16.2%	0.0%	24.3%	10.8%	24.3%	27.0%	5.4%	13.5%	10.8%
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地	中都市 (那覇市)	195	77	37	54	5	54	12	68	70	8	19	12
		100.0%	39.5%	19.0%	27.7%	2.6%	27.7%	6.2%	34.9%	35.9%	4.1%	9.7%	6.2%
	小都市(名護市・石垣市)	175	78	22	49	7	52	35	56	73	6	6	11
		100.0%	44.6%	12.6%	28.0%	4.0%	29.7%	20.0%	32.0%	41.7%	3.4%	3.4%	6.3%
	町村(北谷町・玉城村)	76	39	11	24	4	18	9	24	30	0	1	3
		100.0%	51.3%	14.5%	31.6%	5.3%	23.7%	11.8%	31.6%	39.5%	0.0%	1.3%	3.9%
その他	2	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	
	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

2-2 学習活動を支える条件

(問7、問8、問13、問14)

1 情報提供方法

問7 今後、いろいろな学習や活動に関する情報をお知らせするとしたらどんな方法が最もよいと思いますか。(2つまで選んでください)

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 市町村の広報で | <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> |
| 2. 公民館の広報で | |
| 3. 自治会などの回覧板や掲示板上で | |
| 4. チラシ・ポスター・パンフレットなどで | |
| 5. 知人や仲間などを通して口コミで | |
| 6. テレビで | |
| 7. ラジオで | |
| 8. 新聞で | |
| 9. ミニコミで | |
| 10. インターネットで | |

学習や活動などに関する伝達手段については、「新聞で」が60.0%と大半を占めた。次に「市町村の広報紙で」と「テレビで」がそれぞれ35.9%、35.5%と続いている。その他に比較的高いのが「チラシ・ポスター・パンフレットなどで」が21.2%となっている。一方、「インターネットで」が11.4%にとどまっており、まだまだ広く県民に普及している状況にはないことがうかがえる。

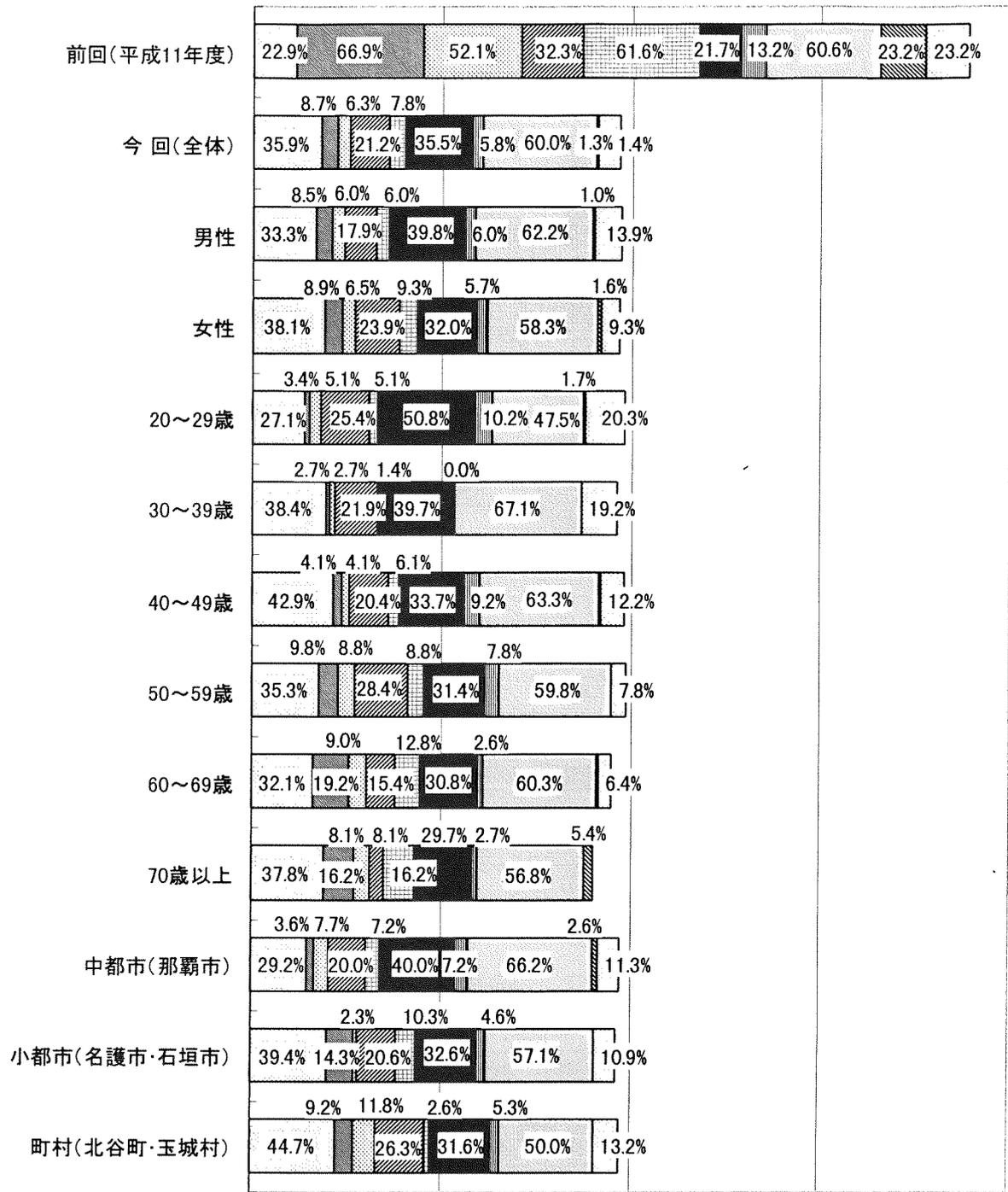
前回調査と比較して、割合の若干の差はあるが、ほぼ同様な結果となっており、新聞や市町村の広報による情報伝達が一定して重要であるといえよう。

	今回の順位 (%)	前回の調査 (%)
新聞で	1 (60.0%)	1 (59.5%)
市町村の広報紙で	2 (35.9%)	2 (39.7%)
テレビで	3 (35.5%)	3 (35.9%)
チラシ・ポスター・パンフレットなど	4 (21.2%)	4 (28.5%)

男女別にみると、きわだった差はみられないが、「テレビで」と「新聞で」について男性が比較的高く、「市町村の広報で」と「チラシ・ポスター・パンフレットなどで」について女性が比較的高い。

年代別にみると、「テレビで」と答えたのが20歳代で50.8%と高く、逆に「自治会などの回覧板や掲示板上で」と「知人などを通して口コミで」が50歳代以上の年代に比較的高い傾向にある。特徴的なのが、「インターネットで」が20歳代と30歳代で約2割と比較的高くなっており、今後、インターネットによる情報伝達の重要性が徐々に高まってくることが予想される。また、「新聞で」が30歳代と40歳代で比較的高い割合となっている。

地域別でみると、都市部で「新聞で」と答えた割合が高い傾向にあり、逆に町村部で「市町村の広報で」と答えた割合が高い。



- ①市町村の広報で
- ②公民館の広報で
- ▨ ③自治会などの回覧版や掲示板で
- ▩ ④チラシ・ポスター・パンフレットなどで
- ▧ ⑤知人や仲間などを通じた口コミで
- ⑥テレビで
- ▨ ⑦ラジオで
- ▩ ⑧新聞で
- ▧ ⑨ミニコミで
- ⑩インターネットで

		標 本 数	学習や活動に関する情報の提供方法									
			1 市 町 村 の 広 報 で	2 公 民 館 の 広 報 で	3 自 治 会 な ど の 回 覧 版 や 掲 示 板 で	4 チ ラ シ ・ ポ ス タ ー ・ パ ン フ レ ット な ど で	5 知 人 や 仲 間 な ど を 通 じ た ロ コ ミ な で	6 テ レ ビ で	7 ラ ジ オ で	8 新 聞 で	9 ミ ニ コ ン で	10 イ ン タ ー ネ ッ ト で
前 回 (平成11年度)		607	139	406	316	196	374	132	80	368	141	141
		100.0%	22.9%	66.9%	52.1%	32.3%	61.6%	21.7%	13.2%	60.6%	23.2%	23.2%
今 回(全体)		448	161	39	28	95	35	159	26	269	6	51
		100.0%	35.9%	8.7%	6.3%	21.2%	7.8%	35.5%	5.8%	60.0%	1.3%	11.4%
性 別	男性	201	67	17	12	36	12	80	12	125	2	28
		100.0%	33.3%	8.5%	6.0%	17.9%	6.0%	39.8%	6.0%	62.2%	1.0%	13.9%
	女性	247	94	22	16	59	23	79	14	144	4	23
		100.0%	38.1%	8.9%	6.5%	23.9%	9.3%	32.0%	5.7%	58.3%	1.6%	9.3%
年 齢	20～29 歳	59	16	2	3	15	3	30	6	28	1	12
		100.0%	27.1%	3.4%	5.1%	25.4%	5.1%	50.8%	10.2%	47.5%	1.7%	20.3%
	30～39 歳	73	28	2	2	16	1	29	0	49	0	14
		100.0%	38.4%	2.7%	2.7%	21.9%	1.4%	39.7%	0.0%	67.1%	0.0%	19.2%
	40～49 歳	98	42	4	4	20	6	33	9	62	1	12
		100.0%	42.9%	4.1%	4.1%	20.4%	6.1%	33.7%	9.2%	63.3%	1.0%	12.2%
	50～59 歳	102	36	10	9	29	9	32	8	61	0	8
		100.0%	35.3%	9.8%	8.8%	28.4%	8.8%	31.4%	7.8%	59.8%	0.0%	7.8%
	60～69 歳	78	25	15	7	12	10	24	2	47	1	5
		100.0%	32.1%	19.2%	9.0%	15.4%	12.8%	30.8%	2.6%	60.3%	1.3%	6.4%
	70 歳以上	37	14	6	3	3	6	11	1	21	2	0
		100.0%	37.8%	16.2%	8.1%	8.1%	16.2%	29.7%	2.7%	56.8%	5.4%	0.0%
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
居 住 地	中都市 (那覇市)	195	57	7	15	39	14	78	14	129	5	22
		100.0%	29.2%	3.6%	7.7%	20.0%	7.2%	40.0%	7.2%	66.2%	2.6%	11.3%
	小都市(名護市 ・石垣市)	175	69	25	4	36	18	57	8	100	1	19
		100.0%	39.4%	14.3%	2.3%	20.6%	10.3%	32.6%	4.6%	57.1%	0.6%	10.9%
	町村(北谷町・ 玉城村)	76	34	7	9	20	2	24	4	38	0	10
		100.0%	44.7%	9.2%	11.8%	26.3%	2.6%	31.6%	5.3%	50.0%	0.0%	13.2%
その他	2	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	
	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	

2 学習活動を進めていく上での要望

問8 今後、学習活動を進めていくうえであなたはどのようなことを要望しますか。(3つまで選んで下さい)

1. 生涯学習の指導者・専門家の育成・紹介にもっと力を入れてほしい	<input type="checkbox"/>
2. 事業案内・講師紹介など、学習するのに必要な情報をもっと提供してほしい	<input type="checkbox"/>
3. 講座・実習・見学・講演会・研修会など学習機会をもっと増やしてほしい	<input type="checkbox"/>
4. 学級や講座など生涯学習事業を、もっと利用しやすい曜日や時間に開いてほしい	<input type="checkbox"/>
5. 団体やグループの援助にもっと力を入れてほしい	<input type="checkbox"/>
6. 青少年教育施設をもっと設けてほしい	<input type="checkbox"/>
7. 公民館など学習や集会のための施設をもっと整えてほしい	<input type="checkbox"/>
8. 図書館をもっと設けてほしい	<input type="checkbox"/>
9. 博物館をもっと設けてほしい	<input type="checkbox"/>
10. 体育館のような屋内スポーツ施設をもっと設けてほしい	<input type="checkbox"/>
11. グラウンドやプールのような野外スポーツ施設をもっと設けてほしい	<input type="checkbox"/>
12. 学習やスポーツ施設に用具や機材をもっと整えてほしい	<input type="checkbox"/>
13. 社会・個人あるいは集団が学習成果を活用しうるようにするための評価をしてほしい	<input type="checkbox"/>

生涯学習推進上の要望をみると、「講座・実習・見学・講演会・研修会など学習機会をもっと増やしてほしい」が43.3%と最も高く、「学級や講座など生涯学習事業を、もっと利用しやすい曜日や時間に開いてほしい」38.6%、「事業案内・講師紹介など、学習するのに必要な情報をもっと提供してほしい」32.6%となっており、この上位3位は4位以下を引き離して3割以上と高い割合である。以下「生涯学習の指導者・専門家の育成・紹介にもっと力を入れてほしい」26.3%、「体育館のような屋内スポーツ施設をもっと設けてほしい」20.5%、「公民館など学習や集会のための施設をもっと設けてほしい」19.6%となっている。

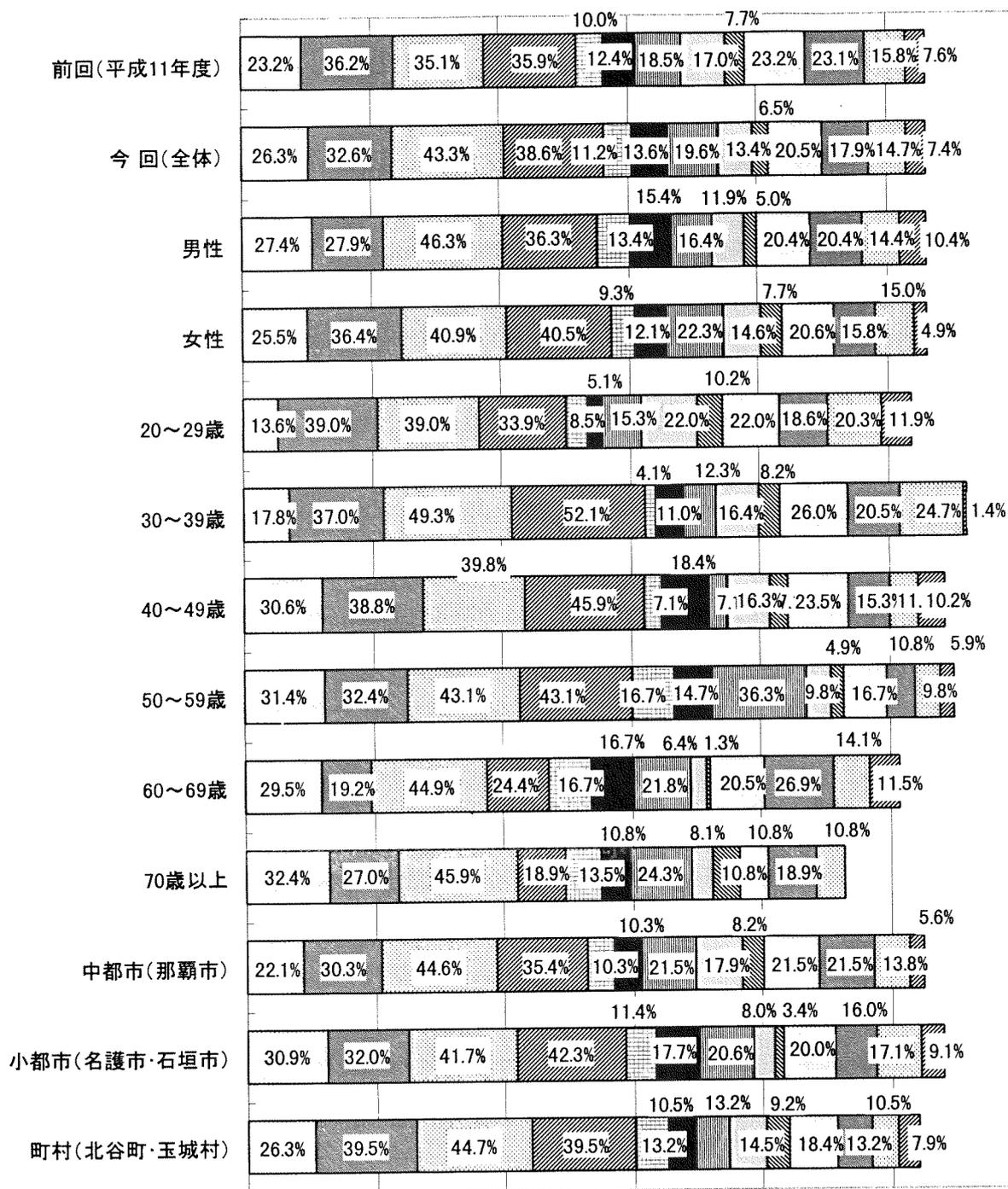
前回調査(平成11年度)と比較すると、人材育成や生涯学習機会の拡充などのソフト施策に関する項目が前回と同様に上位を占めており、大きな順位の変化はない。上位3位をみると「学習機会の拡充」、「利用時間の改善」、「情報提供の強化」が前回同様に3割以上占め、要望の高いことがうかがえる。加えて、「学習機会の拡充」については、前回調査より1割近く割合が高くなっており、一層ニーズが高くなったことがうかがえる。

施設増設の要望は、前回と同様に「体育館のような屋内スポーツ施設の増設」が5位を占め比較的割合が高くなっており、以下「公民館などの集会施設」、「屋外スポーツ施設」と続いている。

	今回の順位 (%)	前回の調査 (%)
学習機会の拡充	1 (43.3%)	3 (35.1%)
利用時間の改善	2 (38.6%)	2 (35.9%)
情報提供の強化	3 (32.6%)	1 (36.2%)
指導者・専門家の育成・紹介	4 (26.3%)	4 (23.2%)
屋内スポーツ施設の増設	5 (20.5%)	4 (23.2%)

男女別でみると、大きな差はなく、同様な傾向を示している。

年代別でみると、高い年代ほど「生涯学習の指導者・専門家の育成・紹介にもっと力を入れてほしい」と答えた割合が高い傾向にあり、40歳代以降の年代でそれぞれで3割を占めている。逆に若い年代ほど高いのが「事業案内・講師紹介など必要な情報の提供」であり、40歳代以下のそれぞれの年代で約4割を占めている。



- ①指導者・専門家の育成・紹介
- ②事業案内・講師紹介など必要な情報の提供
- ▨ ③講座・講演会・研修会など学習機会を増やす
- ▩ ④学級や講座など利用しやすい曜日や時間に関く
- ▧ ⑤団体やグループの援助
- ⑥青少年教育施設の整備
- ▨ ⑦公民館など学習や集会のための施設の整備
- ⑧図書館の整備
- ▩ ⑨博物館の整備
- ⑩屋内スポーツ施設の整備
- ▨ ⑪屋外スポーツ施設の整備
- ▧ ⑫用具や機材の整備
- ▩ ⑬学習成果を活用しうる評価

	標本数	学習活動を進めていくうえでの要望													
		1. 指導者・専門家の育成・紹介	2. 事業案内・講師紹介など、必要な情報の提供	3. 講座・講演会・研修会など、学習機を増やす	4. 学級や講座など、利用しやすい曜日や時間に開く	5. 団体やグループの援助	6. 青少年教育施設の整備	7. 公民館など、学習者集会のための施設の整備	8. 図書館の整備	9. 博物館の整備	10. 屋内スポーツ施設の整備	11. 屋外スポーツ施設の整備	12. 用具・機材の整備	13. 学習成果を活用しうる評価	
前回 (平成11年度)	607	141	220	213	218	61	75	112	103	47	141	140	96	46	
	100.0%	23.2%	36.2%	35.1%	35.9%	10.0%	12.4%	18.5%	17.0%	7.7%	23.2%	23.1%	15.8%	7.6%	
今回(全体)	448	118	146	194	173	50	61	88	60	29	92	80	66	33	
	100.0%	26.3%	32.6%	43.3%	38.6%	11.2%	13.6%	19.6%	13.4%	6.5%	20.5%	17.9%	14.7%	7.4%	
性別	男性	201	55	56	93	73	27	31	33	24	10	41	41	29	21
		100.0%	27.4%	27.9%	46.3%	36.3%	13.4%	15.4%	16.4%	11.9%	5.0%	20.4%	20.4%	14.4%	10.4%
	女性	247	63	90	101	100	23	30	55	36	19	51	39	37	12
		100.0%	25.5%	36.4%	40.9%	40.5%	9.3%	12.1%	22.3%	14.6%	7.7%	20.6%	15.8%	15.0%	4.9%
	20～29歳	59	8	23	23	20	5	3	9	13	6	13	11	12	7
		100.0%	13.6%	39.0%	39.0%	33.9%	8.5%	5.1%	15.3%	22.0%	10.2%	22.0%	18.6%	20.3%	11.9%
	30～39歳	73	13	27	36	38	3	8	9	12	6	19	15	18	1
		100.0%	17.8%	37.0%	49.3%	52.1%	4.1%	11.0%	12.3%	16.4%	8.2%	26.0%	20.5%	24.7%	1.4%
	40～49歳	98	30	38	39	45	7	18	7	16	7	23	15	11	10
		100.0%	30.6%	38.8%	39.8%	45.9%	7.1%	18.4%	7.1%	16.3%	7.1%	23.5%	15.3%	11.2%	10.2%
	50～59歳	102	32	33	44	44	17	15	37	10	5	17	11	10	6
		100.0%	31.4%	32.4%	43.1%	43.1%	16.7%	14.7%	36.3%	9.8%	4.9%	16.7%	10.8%	9.8%	5.9%
	60～69歳	78	23	15	35	19	13	13	17	5	1	16	21	11	9
		100.0%	29.5%	19.2%	44.9%	24.4%	16.7%	16.7%	21.8%	6.4%	1.3%	20.5%	26.9%	14.1%	11.5%
	70歳以上	37	12	10	17	7	5	4	9	3	4	4	7	4	0
		100.0%	32.4%	27.0%	45.9%	18.9%	13.5%	10.8%	24.3%	8.1%	10.8%	10.8%	18.9%	10.8%	0.0%
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地	中都市 (那覇市)	195	43	59	87	69	20	20	42	35	16	42	42	27	11
		100.0%	22.1%	30.3%	44.6%	35.4%	10.3%	10.3%	21.5%	17.9%	8.2%	21.5%	21.5%	13.8%	5.6%
	小都市(名護市・石垣市)	175	54	56	73	74	20	31	36	14	6	35	28	30	16
		100.0%	30.9%	32.0%	41.7%	42.3%	11.4%	17.7%	20.6%	8.0%	3.4%	20.0%	16.0%	17.1%	9.1%
	町村(谷野・玉城)	76	20	30	34	30	10	8	10	11	7	14	10	8	6
		100.0%	26.3%	39.5%	44.7%	39.5%	13.2%	10.5%	13.2%	14.5%	9.2%	18.4%	13.2%	10.5%	7.9%
その他	2	1	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	
	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	